

平成27年度  
事業報告書

学校法人 安城学園

はじめに

学校法人安城学園は平成 27 年度に創立 103 周年を迎えました。学園がこれまで経験してきました明治・大正・昭和・平成と 4 つの時代の中で社会は大きく変化してきました。その中で学園は創立者の教育信条「誰でも無限の可能性を持っている。一人ひとりの潜在能力を可能性の限界まで開発することが教育である。」を継承し、教職員は仕事を通してそれぞれの潜在能力を開発していくことによって学園は発展してきました。

本年度の創立記念日では創立者「寺部だい」から学んで欲しいことを学生・生徒に向けて発信しました。この発信をご紹介することで、平成 27 年度事業報告書の公表にあたっての挨拶に代えさせていただきます。今後とも皆様方の一層のご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

学校法人安城学園

理事長 寺部 曉

寺部だいから学んでほしいこと  
—それは、「生きる意志の強さ」です—

安城学園は明治 45 年に創設されました。そして、11 月 22 日を創立記念日としています。今から 104 年前のことです。さて、あなたがこの世に生を受けたのは、あなたを産んでくれたお母さんのお陰であります。同じように愛知学泉大学・愛知学泉短期大学がこの世に生を受けたのも、愛知学泉大学・愛知学泉短期大学を産んでくれた安城学園のお陰であるといえます。つまり、安城学園がこの世に生まれていなかったら、愛知学泉大学・愛知学泉短期大学もこの世に生まれていなかったということになります。そういう意味で、寺部三蔵・だい夫妻は、愛知学泉大学・愛知学泉短期大学の産みの親である安城学園の産みの親ということになります。

寺部だいは明治 15 年 10 月 20 日碧海郡桜井村で生まれましたが、故あって、母一人子一人の母子家庭でありました。学齢前であったけれども 5 歳のときに小学校への入学を特別に許可されました。しかし、家庭の事情のため「仮名の読み書きには事を欠けなくなったのだから、もう学校へ行く必要がない。」という母親の方針で、小学校 3 年の 10 月に退学しました。

母一人子一人なので、寺部だいは、幼少の頃から、早く自分が自立して、母親を楽にさせたいと考えていました。そのためには、女であっても、職業を持って経済的に自立する必要があります。女の人が働くという概念に乏しかった明治の時代に、安城の桜井村から離れて、誇りを持って働ける職業は、寺部だいにとっては医師か小学校の先生か看護婦しかありませんでした。そこで、寺部だいは小学校の先生になることを選びました。

この夢を実現するために、受験準備に取り掛かり、17 歳のとき 2 回受験しました。しかし、2 度とも不合格になりました。この原因は、小学校の 3 年のとき家庭の事情で退学したことで基礎学力が相当足りなかったことでした。しかし、何としても学校の先生になりたいという夢を捨てることができませんでした。そんなとき、寺部だいは、東京に東京裁縫女学校というのがあって、裁縫教員を要請していると聞き、学校案内を取り寄せました。そこには、6 ヶ月の速成科、1 年の普通科を終えて、国家試験に合格すれば、中等教員の資格が得られると記されていました。そこで、母親に相談すると、「親子二人の農業と、古着商で、何とか生活に見込みが立つようになったのに、上京なんてとんでもない暴挙ではないか」ということでした。しかし、無理矢理頼み込んで、やっとの事で上京することを許してもらいました。

ところが、6 ヶ月の速成科では、卒業しても教員資格がえられないということが分かり、1 年の普通科に入学しました。また、この普通科を卒業しても、小学校専科教員の資格は得られない。さらに高等科の前期・後期課程を終えて、更に国家試験にパスしてはじめて裁縫科中等教員の資格が与えられるということでした。何にしても、基礎学力が無いことが大きな障害となっていました。はるばる東京までやってきたのだから、何としても国家試験に合格するまでは頑張りたい。そこで不足している基礎学力の獲得に全力を注ぐ

ことにしました。神田にある東京府立本科教員養成所に学科の補習のために入学しました。昼間は裁縫学校、夜は教員養成所に通い、12時すぎまで勉強する日々が続きました。

そんな中、母親から、「月々5円の学資を出してくれた2軒の人から、立て替えができなくなったと断られたので、退学して帰村する以外に道はない。一刻も早く帰るように」という一通の手紙がきました。これに対して、「思い立った自分の道は必ず貫徹したいから、故郷へは帰らない。お母さんも体に気をつけて、私の将来を期待してほしい」という意味の返事を送りました。そして、学資が底をついてしまい、月謝の滞納が重なったので、登校禁止を命ぜられるようにりました。新聞を売ったり、牛乳配達をしたりして学資を稼ぎましたが、毎晩30分ほど夜学を遅刻するので、6か月の予科の課程もついに中退してしまいました。そして、再度入学・退学を繰り返し、3度目の入学でやっとこの課程を終えることができました。

一応の目的を達成して、高等科を卒業することができたのは明治38年11月のことでした。東京府から裁縫科教員の辞令を受け、母校の教生としても勤務することになりました。明治39年の12月、ある人の推薦で、滋賀県の石部実業補習女学校に、裁縫科教員として、赴任することになりました。

このように、寺部だいの話はまだまだ続きます。詳しくは「おもいでぐさ」をご覧ください。

学校法人安城学園では、君たちに「無限の可能性に挑戦」・「3つの挑戦」ということをいつも言っています。これは、安城学園として「生きる意志と生きる力と生きる喜びに満ち溢れた人材」を育成しようとしているからです。君たちには、特に、寺部だいから「生きる意志の強さ」を学んでいただければ幸いです。若い諸君一人ひとりの無限の可能性への挑戦に大いに期待して、創立記念日の話といたします。

(平成27年11月22日 創立記念理事長講話)

# 目 次

	頁
I 法人の概要.....	1
1 建学の理念と建学の精神.....	1
2 学校法人の沿革.....	1
3 設置する学校等.....	3
4 学校・学部・学科等の学生数の状況.....	4
5 組織図.....	5
6 役員・評議員・教職員の概要.....	6
7 施設設備の状況.....	7
II 事業の概要.....	8
1 当年度の事業の概要.....	8
(1) 愛知学泉大学.....	8
(2) 愛知学泉短期大学.....	11
(3) 安城学園高等学校.....	14
(4) 岡崎城西高等学校.....	16
(5) 愛知学泉短期大学附属幼稚園.....	19
(6) 愛知学泉大学附属幼稚園.....	20
(7) 愛知学泉大学附属桜井幼稚園.....	21
2 教育研究の概要.....	22
(1) 入学試験に関する情報.....	22
(2) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定にあたっての基準に関する情報.....	22
(3) 卒業者数と進路状況.....	23
(4) 学習環境に関する情報.....	24
(5) 国際交流の取り組み.....	24
(6) 学生納付金に関する情報.....	25
3 管理運営の概要.....	27
(1) ガバナンス.....	27
(2) 自己点検・評価.....	27
(3) 教職員の資質向上.....	27
(4) 情報公開.....	28
III 財務の概要.....	29
1 決算の概要.....	31
(1) 貸借対照表の状況.....	31
(2) 事業活動収支計算書の状況.....	33
(3) 資金収支計算書の状況.....	35
2 経年比較.....	36
(1) 貸借対照表.....	36
(2) 事業活動収支計算書.....	37
(3) 資金収支計算書.....	38
3 財務比率.....	39
(1) 貸借対照表.....	39
(2) 事業活動収支計算書.....	40

## I 法人の概要

### 1 建学の理念と建学の精神

本学園は、学問を庶民に広め、女性の地位向上を立学の趣旨として、明治45(1912)年に創立した「安城裁縫女学校」を出発点としています。以来、時代とともに歩み、社会に貢献する多くの人材を養成してきました。今日では、大学、短期大学、高等学校、幼稚園を有する総合学園へと発展し、三河地域における重要な教育機関として、その役割を担っています。

私学における建学の理念は、単なる特色というだけではなく、理想とする人間像の育成のための原点となるものです。本学園では、建学の理念として「庶民性」と「先見性」を掲げ、学園創立以来、人間教育の基本として位置付けています。「庶民性」とは、民が榮えてはじめて国も榮えるということで、そのために学問を庶民の間に広めていき、地域社会に還元していくことであります。

又、「先見性」とは、来るべき文明を予知して教育の理想像を打ち立て、その育成のために全知全能を傾注するということを意味しています。

本学園の創立者寺部だい先生と寺部三蔵先生はその生涯を通して「真心・努力・奉仕・感謝」の実践を心のよりどころとし、常に求めてやみませんでした。本学園はこの「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神の実践を教育の基本理念としています。

「建学の精神」は、「真心・努力・奉仕・感謝」の実践の精神と建学の理念を基にして設置校ごとに教育の理想像として展開されています。そして、本学園には創立以来一貫した教育理念「誰でも無限の可能性を持っている」があります。これは、一人ひとりを尊重しながら、その特性を伸ばし、個々の能力を高めることを狙いとし、時代に合わせた教育内容や教育方法を取り入れ、感性豊かな人間を育成するものです。今日では、コミュニティという新しい共同体の中で、「自立し共生できる」人間像を描き出すことを一つの指針としています。学校法人安城学園は、未来に逞しく生きる人間形成の場を提供しています。

### 2 学校法人の沿革

年	経 過
明治 45 (1912)年	寺部三蔵、寺部だい、安城裁縫女学校を創立
大正 06 (1917)年	安城裁縫女学校を安城女子職業学校に名称変更
大正 13 (1924)年	財団法人安城女子職業学校認可 (現在の安城学園高等学校の前身)
昭和 05 (1930)年	財団法人安城女子専門学校認可 (現在の愛知学泉短期大学の前身)
昭和 07 (1932)年	鳩山文部大臣が教育視察のため来校
昭和 21 (1946)年	創立者・理事長寺部三蔵逝去 理事長に寺部清毅就任
昭和 22 (1947)年	安城学園女子中学校を開設 (昭和 44 年廃止)
昭和 23 (1948)年	安城女子高等学校を開設 (昭和 33 年 安城学園女子短期大学附属高等学校に名称変更) (昭和 57 年 安城学園高等学校に名称変更)
昭和 24 (1949)年	安城学園附属保育園を開設 (昭和 25 年廃止)
昭和 25 (1950)年	安城学園女子短期大学を開設 (昭和 57 年 愛知学泉女子短期大学に名称変更) (平成 12 年 愛知学泉短期大学に名称変更) 安城学園女子短期大学附属幼稚園を開設 (昭和 57 年 安城学園愛知学泉女子短期大学附属幼稚園に名称変更) (平成 12 年 安城学園愛知学泉短期大学附属幼稚園に名称変更)

年	経 過
昭和 37 (1962)年	学園創立 50 周年 安城学園女子短期大学附属高等学校岡崎城西分校を発足
昭和 39 (1964)年	岡崎城西高等学校を開設
昭和 41 (1966)年	創立者 寺部だい逝去 愛知女子大学を開設 (昭和 43 年 安城学園大学に名称変更) (昭和 57 年 愛知学泉大学に名称変更) 愛知女子大学附属幼稚園を開設 (昭和 43 年 安城学園大学附属幼稚園に名称変更) (昭和 57 年 安城学園愛知学泉大学附属幼稚園に名称変更)
昭和 42 (1967)年	理事長に寺部清毅再度就任
昭和 50 (1975)年	安城学園桜井幼稚園を開設 (平成 13 年 安城学園愛知学泉大学附属桜井幼稚園に名称変更)
昭和 58 (1983)年	愛知学泉女子短期大学がカナダ・カピラノ大学と姉妹校提携
昭和 62 (1987)年	愛知学泉大学が中国・北京第二外国語学院と教育学術文化交流協定を締結 愛知学泉大学に経営学部経営学科を開設 愛知学泉大学家政学部を女子学校から男女共学校に移行
平成元 (1989)年	アメリカ・ニューイングランド大学と教育学術交流協定に調印 (～1999)
平成 5 (1993)年	愛知学泉大学経営学部経営情報学科を開設
平成 8 (1996)年	理事長 寺部清毅逝去 理事長に寺部暁就任
平成 10 (1998)年	愛知学泉大学にコミュニティ政策学部コミュニティ政策学科を開設
平成 11 (1999)年	安城学園高等学校を女子学校から男女共学校に移行 岡崎城西高等学校を男子学校から男女共学校に移行
平成 13 (2001)年	愛知学泉短期大学を女子学校から男女共学に移行 (幼児教育科を除く)
平成 14 (2002)年	学園創立 90 周年 大学家政学部家政学科に管理栄養士専攻を開設 大学家政学部家政学科に家政学専攻を開設
平成 16 (2004)年	愛知学泉短期大学生生活デザイン総合学科を開設
平成 19 (2007)年	大学・短期大学が韓国・烏山大学と教育学術交流協定を締結
平成 20 (2008)年	大学家政学部家政学科にこどもの生活専攻を開設
平成 23 (2011)年	愛知学泉大学に現代マネジメント学部現代マネジメント学科を開設
平成 24 (2012)年	学園創立 100 周年 大学と短期大学が台湾・慈濟技術学院と教育学術交流協定に調印
平成 26 (2014)年	学園創立 105 周年プレ事業「夢のさなか」公演を開催
平成 27 (2015)年	学園創立 105 周年プレ事業「夢のさなか」公演を開催

### 3 設置する学校等

(平成 27 年 5 月 1 日現在)

設置する学校等	学部・学科等	所在地
理事長 寺部 暁		
愛知学泉大学 学長 若林 努 昭和 41 年 4 月開設	家政学部 経営学部 現代マシナリ学部	〒444-8520 岡崎市舳越町上川成 28 〒471-8532 豊田市大池町汐取 1 〒471-8532 豊田市大池町汐取 1
愛知学泉短期大学 学長 安藤正人 昭和 25 年 4 月開設	食物栄養学科 幼児教育学科 生活デザイン総合学科	〒444-8520 岡崎市舳越町上川成 28 〒444-8520 岡崎市舳越町上川成 28 〒444-8520 岡崎市舳越町上川成 28
安城学園高等学校 学校長 坂田 成夫 昭和 23 年 4 月開設	全日制普通科 全日制商業科	〒446-8635 安城市小堤町 4 番 25 号
岡崎城西高等学校 学校長 川合 輔宏 昭和 39 年 4 月開設	全日制普通科	〒444-0942 岡崎市中園町川成 98
愛知学泉短期大学附属幼稚園 園長 森脇 康代 昭和 25 年 4 月開設	—	〒446-0036 安城市小堤町 4 番 25 号
愛知学泉大学附属幼稚園 園長 芳我 岳思 昭和 41 年 4 月開設	—	〒446-0026 安城市安城町栗ノ木 41-1
愛知学泉大学附属桜井幼稚園 園長 木村 順美 昭和 50 年 4 月開設	—	〒444-1154 安城市桜井町稲荷東 20-3

4 学校・学部・学科等の学生数の状況

(平成27年5月1日現在 単位:人)

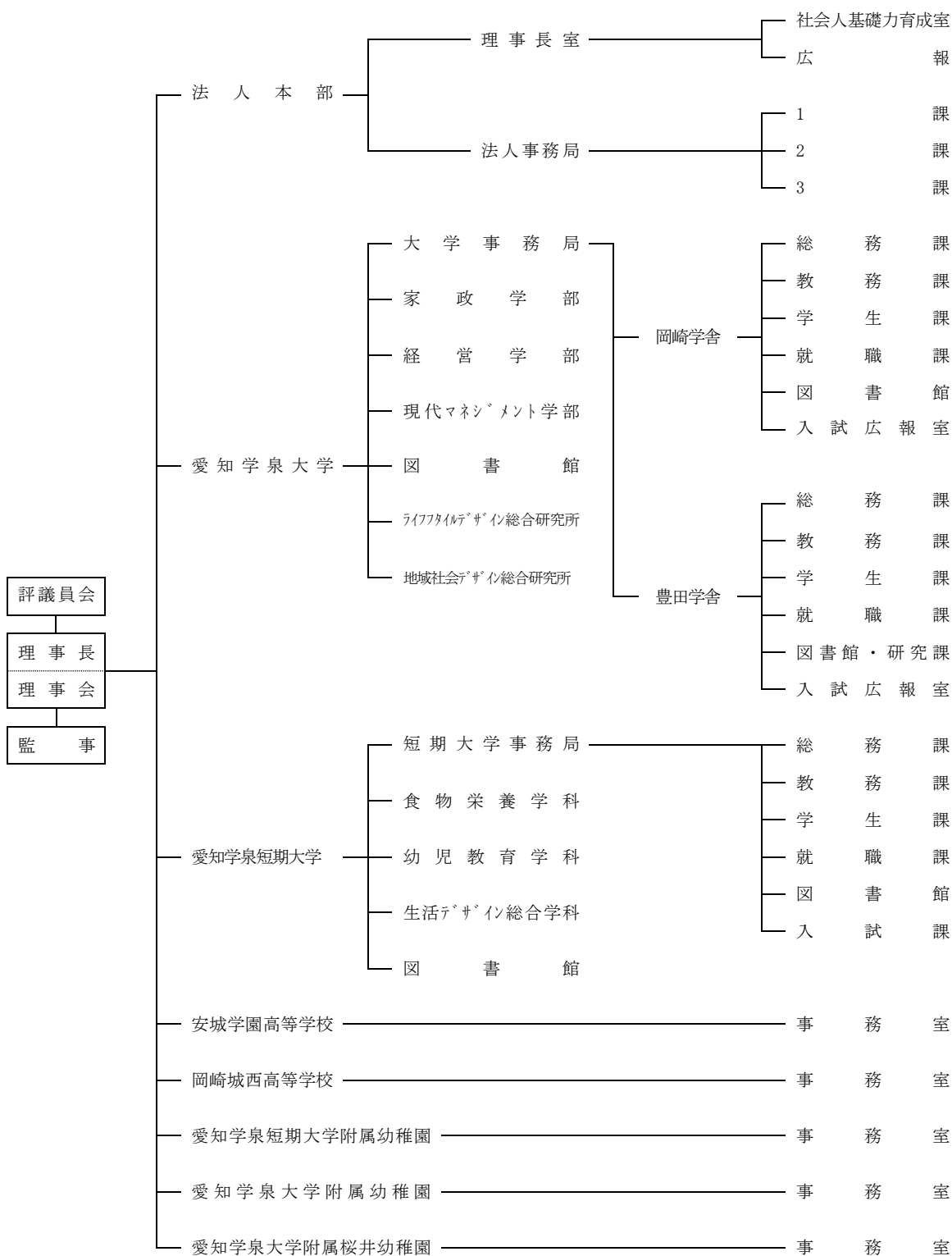
学校名		入学 定員	収容 定員	現員	備考
愛知学泉 大学	家政学部				
	家政学科	190	760	769 (790)	
	家政学専攻	40	160	155 (168)	
	管理栄養士専攻	80	320	325 (328)	
	こどもの生活専攻	70	280	289 (293)	
	経営学部				平成23年度 募集停止
	経営学科	-	-	2 (11)	
	現代マネジメント学部				
	現代マネジメント学科	200	800	527 (574)	
	小計	390	1,560	1,298 (1,376)	
愛知学泉 短期大学	食物栄養学科	40	80	81 (86)	
	幼児教育学科	120	240	247 (243)	
	生活デザイン総合学科	160	320	266 (264)	
	小計	320	640	594 (593)	
安城学園高等学校	普通科	480	1,440	1,199 (1,211)	全日制課程
	商業科	80	240	262 (270)	全日制課程
	小計	560	1,680	1,461 (1,481)	
岡崎城西高等学校	普通科	540	1,620	1,474 (1,456)	全日制課程
愛知学泉短期大学附属幼稚園		69	209	209 (219)	
愛知学泉大学附属幼稚園		104	314	277 (296)	
愛知学泉大学附属桜井幼稚園		88	280	254 (249)	
	合計	2,071	6,303	5,567 (5,670)	

※ ()は平成26年度実績



5 組織図

(平成 27 年 5 月 1 日現在)



## 6 役員・評議員・教職員の概要

### (1) 役員概要

(平成28年3月31日現在)

理事 (定数 11~15人) 現員数 12人

理事長	寺部 暁
理事	若林 努
理事	安藤 正人
理事	坂田 成夫
理事	川合 輔宏
理事	寺部 保美
理事	古山 庸一
理事	森脇 修二
理事	柳瀬 彰
理事	森脇 康代
理事	石原 勝成
理事	三宅 英臣

監事 (定数 2人) 現員数 2人

監事	杉浦 正行
監事	森田 勝己

### (2) 評議員概要

(平成28年3月31日現在)

評議員 (定数 23~31人) 現員数 26人

### (3) 教職員の概要

(平成27年5月1日現在 単位:人)

区分	教員		職員		計	
	本務	兼務	本務	兼務	本務	兼務
法人本部	0	0	11	5	11	5
愛知学泉大学	71	114	36	23	107	137
愛知学泉短期大学	34	74	14	4	48	78
安城学園高等学校	74	57	4	2	78	59
岡崎城西高等学校	76	40	5	2	81	42
愛知学泉短期大学附属幼稚園	9	5	0	4	9	9
愛知学泉大学附属幼稚園	12	5	0	4	12	9
愛知学泉大学附属桜井幼稚園	10	4	0	5	10	9
計	286	299	70	49	356	348

7 施設設備の状況

(平成 28 年 3 月 31 日現在)

	施設名	施設等	面積	帳簿価格 (単位 千円)
1	愛知学泉大学 豊田学舎	校地	116,377 m <sup>2</sup>	3,060,197
		校舎	22,871 m <sup>2</sup>	2,570,396
2	愛知学泉大学家政学部及び 愛知学泉短期大学	校地	54,340 m <sup>2</sup>	3,239,469
		校舎	29,186 m <sup>2</sup>	4,112,155
3	安城学園高等学校	校地	18,243 m <sup>2</sup>	2,052,710
		校舎	16,532 m <sup>2</sup>	1,598,937
		セミナーハウス 土地	29,684 m <sup>2</sup>	159,117
		セミナーハウス 建物	1,016 m <sup>2</sup>	4,469
4	岡崎城西高等学校	校地	35,652 m <sup>2</sup>	2,109,984
		校舎	19,714 m <sup>2</sup>	1,830,132
5	愛知学泉短期大学附属幼稚園	校地	1,108 m <sup>2</sup>	133,063
		校舎	1,146 m <sup>2</sup>	96,250
6	愛知学泉大学附属幼稚園	校地	3,687 m <sup>2</sup>	368,780
		校舎	1,779 m <sup>2</sup>	357,636
7	愛知学泉大学附属桜井幼稚園	校地	4,687 m <sup>2</sup>	234,500
		校舎	1,545 m <sup>2</sup>	320,393
8	法人部門	校地	620 m <sup>2</sup>	70,103
		校舎	-	-
	合計	校地	264,401 m <sup>2</sup>	11,427,926
		校舎	93,793 m <sup>2</sup>	10,890,373

(平成 27 年度 施設設備の主な改修事業)

施設名	事業内容	事業費
岡崎城西高等学校	校舎トイレ改修	56,700,000 円
岡崎城西高等学校	第 1 体育館耐震対策工事	52,678,080 円
安城学園高等学校	教室内情報機器整備	31,715,928 円
安城学園高等学校	体育館耐震対策工事	30,198,000 円
岡崎城西高等学校	第 2 体育館耐震対策工事	19,681,920 円
岡崎城西高等学校	第 1 体育館電気設備工事	15,683,780 円
安城学園高等学校	体育館電気設備工事	13,002,000 円
安城学園高等学校	楽器購入	12,647,988 円
大学岡崎学舎・短期大学	マイクロバス購入	6,696,000 円

(平成 27 年度 施設設備の主な修繕事業)

施設名	事業内容	事業費
岡崎城西高等学校	グラウンドネットフェンス張替工事はじめ 134 件	18,247,425 円
大学豊田学舎	埋設管漏水対策工事はじめ 35 件	4,697,905 円
安城学園高等学校	音楽教室床修繕はじめ 46 件	3,902,748 円
大学岡崎学舎・短期大学	体育館雨漏れ対策工事はじめ 30 件	3,761,139 円
愛知学泉短期大学附属幼稚園	門扉修繕工事はじめ 9 件	2,147,850 円
愛知学泉大学附属桜井幼稚園	浄化槽ポンプ 取替工事はじめ 3 件	408,240 円

## II 事業の概要

### 1 当該年度の主な事業の概要

#### (1) 愛知学泉大学

本学では「建学の精神」を核にした教育、「社会人基礎力」を核にした教育、「PISA 型学力」を核にした教育を実践するにあたり、「3つの挑戦」を全教職員が踏まえ、各々の教育事業を実施し、「教育にイノベーション」を興すことを推進しています。

#### 1) 学部教育の概要

##### 【家政学部家政学科】

###### (教育目標)

基礎学力・家政に関する基礎的かつ体系的な知識及び技術・社会人基礎力を統合的に身に付け、職場及び地域の活性化に貢献できる人材を育成すること

###### (家政学専攻の教育目標)

これからの社会の新しいライフスタイルを提案することによって、人々の日常生活を衣・食・住・余暇の面から支援することのできる人材を育成すること

###### (管理栄養士専攻の教育目標)

管理栄養士の資格を生かしてチーム医療、健康増進・疾病予防、食育・栄養指導、健康をテーマにした食品の研究・開発等で活躍することによって人々の日常生活を健康の面から支援することのできる人材を育成すること

###### (こどもの生活専攻の教育目標)

保育士・幼稚園教諭・小学校教諭の資格を生かして子どもたちの学力及び社会性・社会力の基礎・基本を育てることによって、人々の日常生活を子育ての面から支援することのできる人材を育成すること

##### 【経営学部経営学科】

###### (教育目標)

基礎学力・経営に関する基礎的かつ体系的な知識及び技術・社会人基礎力を統合的に身に付け、職場及び地域の活性化に貢献できる人材を育成すること

##### 【現代マネジメント学部現代マネジメント学科】

###### (教育目標)

基礎学力、マネジメントに関する基礎的かつ体系的な知識・技術、社会人基礎力を統合的に身に付け、職場及び地域の活性化に貢献できる人材を育成すること

#### 2) 教育事業の概要

##### 【社会人基礎力育成事業】

###### (概要)

本学の社会人基礎力育成事業のさらなる質の向上を念頭に、学部3年生全員を対象とする外部評価面談事業を昨年度に引き続き実施しました。平成28年度に向けては学生による自己点検・評価ノート「無限の可能性への道 - 社会人基礎力を育む学泉ノート -」の監修を終えました。そして、より高度な社会人基礎力を発揮する場面として、官公庁や企業と連携した官学・産学連携事業に取り組みました。今後については社会人基礎力の修得を卒業要件とする学士課程の構築の準備を進めていきます。

###### (社会人基礎力育成授業)

家政学部においては、正課授業の中で学生の社会人基礎力を育成（強化）するための科目を全学年、全専攻に配置し、学生は、シラバスに記載してある社会人基礎力と教科の達成目標を実現するための自己評価を遂行しました。又、学生による自己評価については各種の評価シート類のポート

フォリオ化を進めています。現状においてはそれぞれの学生の社会人基礎力を12の要素に分類し、要素毎の到達目標を設定し、年次単位、学部卒業時における到達度を学修成果としてより正確に測定していく上でこれらの評価基準を整備していくことを進めています。

現代マネジメント学部においては、学部1年生の授業における社会人基礎力のガイダンスを本年度も継続して実施しています。授業の中での個人、グループワークを通じて、チームで活動することを経験させ、社会人基礎力の意識付けを図りました。全15回の講義の中で4回を社会人基礎力の説明として意識付けを図り、11回の講義を学生の社会人基礎力の発揮・育成の場としてグループディスカッション、プレゼンテーション会、自己振り返り会を行いました。又、学部3年生の必修科目「現代マネジメント実習」ではそれぞれの教員と学生が地域との連携活動を通して実習を行い、途中で社会人基礎力を育成しています。

#### (外部評価面談事業)

この事業の目的は面談を実施することにより学生が社会人基礎力育成事業を通して得た能力を自覚し自身につなげるとともに、自身の課題を明確にすることです。そして学生が社会人基礎力を身に付ける意義を理解することにあります。

面談は学部・専攻の授業（ゼミ）を基本単位としてグループで行います。学生は事前に「社会人基礎力シート」に自己の振り返りを記録した上で面談に臨みます。実施しました面談の日程は以下のとおりです。

07月 中間評価面談を実施（岡崎学舎、豊田学舎）

01月 事後評価面談を実施（岡崎学舎、豊田学舎）

#### (社会人基礎力発表会)

平成23年度から開始した社会人基礎力学内発表会は、今年度も平成27年12月4日に豊田市民文化会館で行われました。今年度も前年度に引き続き会場を学外施設とし、又、学生への教職員の働きかけが功を奏し例年と比べてより多くの学生の参加がありました。発表会では大学・短期大学合わせて8チームが出場しました。

##### 【家政学部】

家政学専攻 「生活スタジオの取り組み「大学アート化」プロジェクト  
管理栄養士専攻 「安城のキュウリから広がる無限の可能性～レシピ開発プロジェクト～」  
こどもの生活専攻 「地域の特色を生かしたボランティア活動づくり」

##### 【現代マネジメント学部】

「蚕についてしてもらおう！「稲武お茶づくしの交流会」における紙芝居の実演と学祭出店を通じて  
「鞍ヶ池公園整備事業への参画：行政・NPO・学生のパートナーシップによる地域貢献活動の実践」

##### 【短期大学】

食物栄養学科 「聞いて・見て・実行、地産食品促進の取り組み  
～食品材料実験からはぐくむ社会人基礎力～」  
幼児教育学科 「こどもまつりを支える総務組織の委員としての取り組み」  
生活デザイン総合学科 「「シカ問題」から見る、私たちの生活環境」

##### 【審査結果】

優 秀 賞：家政学部家政学専攻チーム

優 秀 賞：短期大学食物栄養学科チーム

### 3) 国際交流事業

本学はこれまでも海外の大学との交流を意欲的に取り組んできました。近年、経済的な理由などから海外の提携校に短期・長期研修に参加を希望する学生が減少しています。本年度の主な国際交流事業は次のとおりです。

(北京第二外国語学院との教育交流)

長期留学生3名を受け入れました。

又、本学から長期留学生1名を派遣しました。

(韓国烏山大学との教育交流)

本学から長期留学生3名を派遣し、3名の長期留学生を受け入れました。

(台湾慈濟技術学院との教育交流)

今年度の長期留学生の派遣・受入はありませんでした。

これらのほかにも学術交流協定校と相互の短期語学・文化研修を実施し、交流を深めました。学術交流校からは計32名の短期留学生を受け入れました。大学・短期大学からは計14名の短期留学生を派遣しました。

### 4) 就職支援事業

学生の質の変化により、就職活動に意欲的な学生層と、目的意識の希薄あるいは就職活動に関して前に踏み出す力の弱い学生層、所謂“就職困難者”への二極化の傾向が進んでいます。又、企業側の採用基準は、景気動向、雇用の国際化に伴って「より良い人材」を厳選するようになっています。このような中で、学生が主体的に活動するよう就職支援活動と学生指導に取り組みました。そして、就職困難者の「就職率100%」達成に向けて、保護者と連携しながらを学生支援を徹底しました。

国家試験、公務員対策、資格取得対策等の取り組みでは、管理栄養士国家試験対策講座として模擬試験で学生の能力を判定しながらきめ細かい指導を実施しました。更には資格支援講座、公務員対策講座を開講し学生のキャリア支援を行いました。その中で平成27年度卒業生の管理栄養士国家試験の合格率は96.8%を達成しました。

### 5) 地域貢献に関する事業

家政学部、現代マネジメント学部の教員・学生は地域社会・自治体のまちづくり活動への支援を継続して行っています。

(家政学部)

安城市農務課(安城市農畜産物特産品協議会)と連携した産官学連携時活動を今年度も継続して実施しました。今年度は安城産きゅうりの消費促進を目指し、きゅうりを使ったレシピ開発やソーセージの商品開発、JA主催の農業まつりでのイベントを実施しました。

(現代マネジメント学部)

地域社会貢献事業は3年生の必修科目である現代マネジメント実習等を通して、豊田市、豊山町との連携を継続して行い地域社会・自治体のまちづくりに貢献しました。

## (2) 愛知学泉短期大学

### 【建学の精神】

創立者がその生涯を通して心のよりどころとし、常に求めてやまなかった「真心・努力・奉仕・感謝」の実践の精神を教育の基本とし、一人ひとりの潜在能力を可能性の限界まで引き出して、家庭と社会に温かい心と新しい息吹を与えることのできる人間を育成すること

### 【愛知学泉短期大学の使命】

「安城学園教職員憲章」は、「建学の精神を核にした教育」、「社会人基礎力を核にした教育」、「PISA型学力を核にした教育」によって、生活上の身近な問題については単独で解決することの出来る能力（コンピテンシー）を身に付け、職場や地域の課題については組織・コミュニティの一員として他のメンバーと協力・協同しながら、また、自分たちのまちは自分で育てようという意欲を持って解決できる人材の育成を教職員に対して提示しています。

そこで、憲章で示す「知・徳・体・行」に基づき「教育で勝負できる短期大学」として平成27年度の本学が実施する第一ステージ（授業）、第二ステージ（学内）、第三ステージ（地域・国内）、第四ステージ（海外）に於ける教育・研究と学内の管理運営の各行動計画を実施しました。尚、各事業は達成状況と課題を明らかにして、いわゆる「3つの挑戦」（不得意への挑戦、上達への挑戦、未知への挑戦）の観点で取り組むこととしました。

### 1) 学士課程の質保証に向けて

#### 【知・徳・体・行の教育の推進】

食物栄養学科及び幼児教育学科ではそれぞれの資格取得を目標として取り組みました。平成27年度食物栄養学科の卒業生（41名）は全員が栄養士の資格を取得し、医療事務の資格については希望者（37名）全員が取得しました。（就職率95.0%）

幼児教育学科の卒業生（109名）は全員が保育士と幼稚園教諭2種の免許を取得しました。（就職率93.4%）一方、同学科の入学者は定員未充足となり、出口教育の改善による入口への好循環の構築が次年度の課題であります。

生活デザイン総合学科では継続したカリキュラムの見直しを実施しました平成27年度は資格・検定の更なる導入の結果、平成28年度入学者は平成27年度までの定員未充足から定員確保（161名）となりました。一方、同学科の卒業生（127名）の就職率は86.4%でありました。

#### 【建学の精神を核にした教育】

建学の精神についてはオリエンテーション時に1年生を対象に3学科それぞれで教員が同席するかたちで時間を確保して創立者の生い立ちや信条についての理解を深める機会を設けています。

食物栄養学科では学生と教職員に対して法人事務局長の講話を実施しました。また、生活デザイン総合学科では理事長による「建学の精神」の理解と本学の歴史についての授業を適宜開講し、その涵養に務めました。

学園の創立記念日（11月22日）には理事長による学生、教職員へのメッセージを掲示し、「建学の精神」の涵養の機会としています。そして、創立105周年プレ記念事業「ゆめのさなか」公演を11月23日に豊田市民文化会館で実施し、創立者の生い立ちについて理解を深める貴重な機会となりました。

例年1月の第3木曜日には「建学の精神」に基づき、3学科で20歳の在学生の成人を祝う「成人のつどい」を企画し、教育後援会長、理事長、学長による祝辞、また学科教員による学生の新たな門出を祝う伝統行事となっています。

## 【社会人基礎力を核にした教育】

前年度に新設しました短期大学全学科共通の必修科目である「無限の可能性開発講座」は平成 27 年度においても授業内容の更なる改善と継続して全教員の参画を行動目標としました。学生は「社会人基礎力」についての理解を深め、教員は「社会人基礎力」の教授法にかかる研鑽に努める機会となっています。また、教員は各科目の「社会人基礎力」評価基準の作成や教材研究を通して「社会人基礎力を核にした教育」の充実に努めました。

各学科では平成 27 年度も PBL 型授業（プロブレムまたはプロジェクト）の開発に努め、取り組みの拡大を図りました。平成 27 年度の実施状況は次のとおりです。また、成果の一つとして、12 月に例年のおおりに大学と短期大学の合同による第 6 回「社会人基礎力学内発表会」が行われました。発表会では各学科代表チームによる PBL 授業の成果発表があり、今年度は食物栄養学科チームがグランプリを獲得しました。

同チームは社会人基礎力協議会が主催する「社会人基礎力グランプリ」の中部地区予選大会に出場し、地区代表に選出されました。（同チームは 2016 年 2 月に開催されました「社会人基礎力グランプリ」全国大会へ出場しました。）

（各学科における PBL の取り組み）

岡崎青年会議所との共同企画 「繭プロジェクト」	（生活デザイン総合学科）
「認知症福祉プロジェクト」	（生活デザイン総合学科）
岡崎市藤川道の駅（むらさき麦）活性化事業	（食物栄養学科）
豊田市森林組合とのしいたけ共同事業	（食物栄養学科）
トヨタキャッスルホテルとのメニュー開発共同事業	（食物栄養学科）
岡崎市市制百年事業「食育フェスタ」	（食物栄養学科）
学生による企画・運営の学内伝統行事「こどもまつり」	（幼児教育学科）
「岡崎げんき館」 ボランティア活動	（幼児教育学科）

## 2) 地域との連携

### 【岡崎げんき館】

平成 27 年度の「岡崎げんき館」事業では引き続き公開講座とワークショップ形式で魅力ある市民向けプログラムを提供しました。これらのプログラムに参加する親子も年々増加しており事業は極めて順調に推移しています。

（短期大学 3 学科の事業内容）

- ・子どもと親のための公開講座 （全学科で 6 回開講 土曜日）
- ・健康づくり「特別支援講座」 （食物栄養学科）
- ・イベント「春のげんきまつりコンサート」の企画実施 （幼児教育学科）
- ・学生ボランティア活動「学泉のお姉さんと遊ぼう！」による子ども支援 （幼児教育学科）
- ・幼児教育・保育の現職者に対する研修講座の企画開催
- ・岡崎げんき館内の保育士職員に対する研修会の実施 （幼児教育学科）

### 【岡崎大学懇話会】

教員と学生（学生会）による岡崎大学懇話会の活動として、以下の事業を実施しました。

- ・岡崎市産学共同研究事業への応募 （5 月）
- ・研究者データベース更新 （6 月）
- ・オープンカレッジ大学開放講座への参画 （6 月～7 月）
- ・「たつみがおかーふるさと夏まつり」への参加 （7 月）
- ・講座「岡崎学－岡崎を考える」開催 （5 月～6 月）
- ・「学生フォーラム」への参加 （12 月）
- ・「生活と文化」講座の開催 （2 月～3 月）



**【矢作地区 PTA 連絡協議会】**

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び短期大学・大学の教員と父母関係者で構成する「岡崎市矢作地区 PTA 協議会」は年 1 回（5 月）の恒例で開催されています。「まちづくり」を標榜する本学園もこの協議会に出席し、地域との連携を図っています。

**【学科の地域連携事業】**

食物栄養学科では愛知県立岩津高校（国際調理科）との教育連携を 8 月に開催しました。

また、豊田市立大畑小学校 4 年児童対象の食育事業を実施しました。

生活デザイン総合学科では前年に引き続きゼミ学生を中心に「東北から学ぶ」をテーマに 8 月に種々のボランティア活動を東北で実施しました。

3) 国際交流事業

**【韓国・烏山大学との教育交流】**

本学と韓国・烏山大学との間の学術・文化交流事業は順調に推移しています。今年度も相互に 1 年間の交換留学を実施し、烏山大学から 2 名の学生を受け入れ、本学から 3 名の学生を派遣しました。また、又、相互の短期語学・文化研修については、烏山大学から 20 名を受け入れ、本学からの派遣は中止しました。（韓国内感染症の流行のため）

**【カナダ・カピラノ大学との教育交流】**

平成 27 年度は協定に基づき相互に学生の交換留学（3 ヶ月）を実施しました。カピラノ大学から 1 名の教員と 2 名の学生を受け入れ、本学からは 3 名の学生を派遣しました。

**【台湾・慈済技術学院との教育交流】**

平成 25 年度から協定に基づく相互交流を開始しています。平成 27 年度は慈済技術学院からの短期語学研修生を 12 名受け入れました。

5) 管理運営事業

**【自己点検・評価活動】**

平成 27 年度の「自己点検評価」活動は、規程に基づき 5 月以降 8 月までの間に平成 26 年度の教育実施状況について自ら点検評価し、その成果を取り纏めました。

また、本学と湊川短期大学の 2 回目の相互評価を平成 28 年度に実施する協定書を締結しました。

### (3) 安城学園高等学校

#### 【建学の精神】

「真心・努力・奉仕・感謝」の実践を通して「潜在能力」を開発し、家庭に温かい心、社会に新しい息吹を与えることのできる人間の育成

#### 【教育目標】

- ・「真心・努力・奉仕・感謝」の精神を育む
- ・確かな学力と豊かな感性を育む
- ・豊かな心と健やかな体を育む
- ・人格を鍛え、品位・品格を育む
- ・国際社会に貢献できる力を育む

#### 【教育方針】

「真心・努力・奉仕・感謝」の実践体得と先進的且つ豊かな人間性の昂揚

#### 1) 学力向上を目指す生徒の育成事業

平成 27 年度は、本学園の教育方針である「建学の精神に基づいた教育」、「PISA 型学力」、「社会人基礎力の育成」の実践が動き出しました。また、教科指導におけるキャリア教育の研究とするための研究及び研修を重ねました。

##### (総合学習の導入)

平成 25 年度 1 年生から開始した「総合学習」は今年度 3 年目を迎えました。自校教育の推進、建学の精神についての講話、キャリア教育をどう進めるか、又、生徒による課題発表等、試行錯誤を重ねた今年度でした。

##### (特色ある授業実践)

国語科では 2 年生の現代文の授業で小説の背景であるイラク戦争についての解説を地歴公民科の先生方にしてもらうクロスオーバー型授業を実施しました。この授業は生徒の評判が高く、小説への理解が深まりました。また、国語科の教員の勉強にもなりました。そして、教員研修では学内研修を 3 回実施し、学外研修への参加は今年度 10 回を教え、主にアクティブラーニング型授業の研究を目的として研修会に参加しました。

##### (家庭学習の習慣化)

前年度に続き、家庭学習時間を増やすことを重要課題とし、教科、各学年で取り組みました。年 5 回実施した学習アンケートでは文理 I コースでは平日に 2 時間以上学習する生徒が各学年 40% を超えており、前年度に比べても家庭学習の習慣化が定着してきていることを確認しました。他方、文理 II コースでの家庭学習の習慣化は依然として定着しておらず、学習時間ゼロの生徒が各学年ともに 40% を超える結果となりました。今後も家庭学習の習慣化を重要課題と位置づけています。

##### (各種検定試験への積極的な取り組み)

前年度に続き、英語検定・数学検定・漢字検定・商業検定で受験者増、合格者増を目指して取り組みました。結果、英語検定、漢字検定では受験者・合格者ともに前年度に比べて増加しました。商業検定ではより難度の高い級での受験者・合格者ともに前年度に比べて増加しました。数学検定は受験者・合格者ともに前年度に比べて減少する結果となりました。

##### (面倒見のよい授業指導)

前年度に引き続き平成 27 年度も重点項目の一つに位置づけて各教科での面倒見のよい授業指導、放課後指導、学年単位での試験前プロジェクト指導に取り組み、単位不認定生徒の減少に努めました。今後は授業の改革とともに日常的な家庭学習時間の増加、放課後指名呼び出し指導の実施等が必要と考えています。

## 2) 国際交流・地域交流事業

今年度はオーストラリアへのホームステイは参加希望者数が振るわず中止となりました。イギリスロンドンへのホームステイは実施予定でしたが、11月に発生しましたフランスでのテロ事件のためやむを得ず中止となり、充実しない研修となりました。又、今年度はタイ、アメリカ合衆国からの留学生をそれぞれ1名受け入れました。本校生徒の留学はアメリカ合衆国、カナダ、オーストラリアへそれぞれ1名を数えました。

## 3) 活力ある生徒の育成事業

活力あるクラス・学年・生徒会づくりを目指すとともに重点として退学者の減少・欠席率の減少・遅刻率の減少を目指しました。その結果、今年度の退学者は18名で前年度と比べて17名の減少となりました。

## 4) まちと学校・地域をつなぐ地域活動事業

生徒会が中心になり今年度も安城七夕まつりやサンクスフェスティバルへの参加や近隣町の防災訓練への参加などを通じて地域交流を積極的に展開しました。又、「安城まちの学校」と提携した「土曜講座」は3年目を迎え、小学生、小学生保護者の多数の参加がありました。

### ・地域交流・ボランティア

8月 安城七夕祭り

10月 サンクスフェスティバル

12月 城南町避難訓練

### ・「安城まちの学校」との協賛行事

土曜講座（5月から2月にかけて計8回実施）

7月 川の学校

## 5) 東日本から学ぶプロジェクト

被災地からの学びを意識した4年目の活動でありました。本学から被災地へでかけての活動と合わせて被災地から高校生を招く活動を展開することができました。又、社会科では教科として「東北セミナー」を前年度に続き今年度も開催しました。

① 大船渡七夕ボランティア 8月 （生徒14名、教員1名参加）

② 東北セミナー 8月 （生徒22名、教員2名参加）

③ 学園祭 9月 （本学学園祭 大船渡東高校生徒会、太鼓部招待）

④ 災害ボランティア参加 12月 （宮城県気仙沼市 野球部32名・サッカー部20名参加）

⑤ 東日本と愛知をむすぶコンサート 12月 （宮城県気仙沼市 弦楽部30名参加、教員3名参加）

## 6) 教育活動状況の発信

安城学園高等学校の教育活動はホームページやSNSでも広く発信しています。

安城学園高等学校（ホームページ）URL <http://www.angaku.jp/>

安城学園高等学校（facebook）URL <https://www.facebook.com/angaku>

#### (4) 岡崎城西高等学校

##### 【建学の精神】

質実剛健・己に克つ・勇気と努力を持って困難に立ち向かう剛毅闊達な人間の育成

##### 【教育目標】

セルフコントロールのできる人間、コミュニケーションのできる人間の育成を通して、たくましい庶民としての資質を育てること

##### 【教育方針】

建学の精神の下に「己に克つ」心を育成し、クラブ活動及び学習活動を通して心身の逞しい生徒を育成すること

##### 【教育活動の目標】

創設者寺部だい先生の「人は誰でも無限の可能性を持っている。それを見つけ伸ばすのが教育である」という信条のもとに、建学の精神・教育目標を根幹に置き、「3つの勉強」と「3つの挑戦」をすることによって、生徒は勿論教職員においてもそれぞれが持っている無限の可能性を見つけ伸ばそうという前向きな人間形成を目指す。そしてその努力をすることによって、「楽ではないが楽しい学校」を創りだす。

##### 【教育活動の総括】

「3つの勉強」と「3つの挑戦」をすることによって、「楽ではないが楽しい学校」になり、それが、「自分の持っている可能性を見つけ伸ばす」ことに繋がることについて、機会ある毎にキーワードとして訓話をし、教職員及び生徒の意識に浸透しつつあると思われる。同様に本校は学習と部活動の両立を目指す学校であることも生徒・教職員に理解と実践がされつつあると感じる。

具体的には、出口の面で、平成27年度の卒業式関係の行事からみて、本年度の卒業生が「城西でよかった」という満足感を抱いて卒業していったと感じられたことによります。また、入り口の面において、平成28年度の入学者が548名と昨年度より52名の増となり、ここ10年間では一番多い入学者数になった点において、長年の本校教育及び平成27年度の本校の教育事業が中学生とその保護者に考えられます。

次年度に向けては少子化に向かう中で本校が地域からより信頼される学校として一定の評価を得られるべく、教育事業の見直し・再検討・改革を進めていきます。その為にも、「建学の精神」、「教育目標」の理解と実践にはじまり、「社会人基礎力」、「PISA型学力」へのより深い理解と教育を目指し、「教育で勝負できる学校」作りを目指します。

#### 1) 3つの勉強

本校での勉強は「授業の勉強」、「部活動での勉強」、それと、「行事での勉強」の「3つの勉強」に取り組むことです。

この「3つの勉強」への取り組みの中で生徒は自分の可能性を探り、伸ばしています。

##### (授業の勉強)

生徒は授業を大切にし、好きな教科を見つけることから授業への興味・関心を高め、授業の中から自分の可能性を探り、自分を伸ばしています。教員は「わかる授業」の実践、その為の「授業力」の向上を目指しています。「授業力」についての研究では「ICT活用授業」、「アクティブラーニング」を中心に教員研修会、研究会に積極的に参加しました。また、教科会を単なる連絡事項の場とせず、授業力向上の場として展開を図っていきます。

#### (部活動での勉強)

運動部については全国を目指しての頑張りをもっと期待するとともに文化部の活動も含めて指導の一環として「社会人基礎力」の養成を意識していくことを図っていきます。1年生は全員部活動に所属します。2・3年生も部活動への所属率を高め、自分の好きな分野、得意分野の中で自分の可能性を探り、自分を伸ばしています。部活動顧問、指導者は生徒に「できた、よかったの感動」を与えるための指導を目指しています。

#### (行事での勉強)

生徒は本校伝統の年間を通じて盛んな学校行事にクラス・部活単位で参加することにより仲間との共同作業を通して自分の可能性を探り、自分を伸ばしています。教員は生徒と共に汗をかくことにより一体感を共有するよう指導及び活動を行っています。

「体育祭」と「文化祭」の二大行事はマンネリ化とならぬよう更なる創意工夫に努めました。「東日本プロジェクト」における東北ボランティアは本年度は車中2泊とホテル1泊の工程で約40名が参加しました。現在、東北における生徒のボランティア活動の場がなくなる傾向にありますので、ボランティア活動以外での「東北からの学び」を今後検討する必要性を感じています。

伝統行事「夏山合宿」は本年度生徒28名、引率教員3名で実施しました。伝統行事として希望制での30名程度でこの伝統行事を継続していきます。

### 2) 3つの挑戦

本校では、「3つの勉強」それぞれに「3つの挑戦」をして自己の可能性を探り、自己を伸ばしています。

#### (未熟、不得意を克服する挑戦)

社会人基礎力「前に踏み出す力」を意識して、自己の可能性をより広げるために、「授業」・「部活動」の勉強の中で挑戦を行います。また、「行事」の勉強の中においても、積極的に関わることで人間性を高めることに挑戦しています。

#### (熟練・得意への挑戦)

社会人基礎力「主体性・実行力」を意識して、「授業」での得意科目、好きで得意な「部活動」の中で挑戦することにより、自己の可能性を更に高める努力に挑戦しています。

#### (未知なるものへの挑戦)

社会人基礎力「前に踏み出す力」を意識して、「学校行事」の中で、「東日本プロジェクト（東北ボランティア）」、「夏山合宿」、「オーストラリア語学研修」といった本校独自の行事への参加を促しています。また、学年を超えた繋がり「体育祭」、「文化祭」に積極的に参加することに挑戦します。

### 3) 地域及び中学生やその保護者から信頼されるセルフコントロールのできる生徒の育成

本校では、基本的な生活習慣を身につけさせ、はじめのある学校生活を送ることができるようセルフコントロールのできる生徒を育成します。

1. セルフコントロールができるための三原則の徹底（遅刻防止、挨拶、マナーを守る）  
職員会議・行事での講話において繰り返し指導。また、運動部生徒から全校生徒への波及効果を狙い、クラブ顧問を通じて指導を徹底。挨拶面においては、登下校時・校内で気持ち良い挨拶ができる状況となってきました。
2. 交通ルール理解と防衛意識の向上、交通マナーの向上  
自治体の春夏秋冬・年末年始などの交通安全週間の生徒への周知を行っています。また、年に一度自動車学校から講師を招いて「安全教室」を実施しています。効果としては、徐々にではありますがマナー面および防衛意識は向上しつつあります。

3. 「いじめ」の防止・早期発見・早期解消・措置  
6月に「いじめアンケート」を実施し、アンケートの結果をもとにいじめ対策委員会において現状を把握し、個々の事例については更に現状を確認しました。結果、いずれも「特に問題なし」と判断しました。今後は「いじめアンケート」の継続実施と「いじめへの啓蒙活動」の実施を検討しています。
4. スマートフォンの利用マナーの向上  
4月と12月に「SNSに関する全校アンケート」を実施しました。注意・指導しなければならない問題として、平日の利用時間が2時間から3時間の生徒が全校生徒の約50%を占めていることでした。指導としては、新入生には4月のオリエンテーション合宿で、上級生には5月上旬の集会で外部講師をお招きして「情報モラル講習会」を受講させています。結果、利用マナー違反はほとんど見受けられない状況となっています。

#### 4) 教育活動状況について

##### (学習指導)

大学入試改革（2020年度）に向けて今後3年間で各教科のカリキュラム、授業内容の再検討に着手しました。全教員を対象とする外部講師を招いてこの大学入試改革に向けた研修を行いました。学習指導部門、進路指導部門はそれぞれ研修会に参加しました。

学力の低い生徒及び本校生徒の基礎学力の向上に向けた具体的指導は従来からの継続課題となっています。次年度は入試成績が下位の者に対する具体的指導を実施する予定です。

教科会を連絡事項の会とせず、各教科において「pisa型学力」を意識した授業、教員育成の場、授業力向上の場となるように教科会の充実を図ります。

##### (制服改訂)

本校では平成29年度からの夏服の改訂の準備を進めました。業者の方を交えて検討委員会を6回実施しました。仕様はほぼ確定しましたので、学内運営委員会が決定していく方針です。

##### (教育活動状況の発信)

岡崎城西高等学校の教育活動はホームページでも広く発信しています。平成29年度からは同窓会のホームページが開設予定です。

岡崎城西高等学校 URL <http://www.johsei.jp/>

## (5) 愛知学泉短期大学附属幼稚園

### 【教育理念】

愛知学泉短期大学附属幼稚園の教育理念は、「豊かな心と潜在能力の開発」にあります。これは、安城学園の建学の精神「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神を教育の基本理念として、家庭と社会に温かい心と新しい息吹を与えることのできる人間を育成することにあります。

### 【教育方針】

短大附属幼稚園では、遊びや集団生活を通して「真心・努力・奉仕・感謝」の建学の精神を伝え、「元気な子・明るい子・考える子・思いやりのある子」を育てていくために、そして、子どもたち一人ひとりの潜在能力（＝無限の可能性）を引き出すよう教職員が自分たちの言葉や行動を通して、常にチャレンジ精神で物事に取り組んでいくことを教育方針として掲げています。そして、幼稚園教育の基本である5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を踏まえ、各学年の日常保育・行事をおこなうよう努力しています。

### 【教育事業】

短大附属幼稚園では、教育方針に基づく園児たちの指導にあたり、保護者の要望も考慮しながら、保育内容や教員の指導力の向上に向けていろいろな研修に参加し資質向上を図っています。

#### (教員研修)

平成27年度に実施した主な教員研修は以下の通りであります。

- ・幼稚園教育課程講座
- ・子どもたちの未来の為此からの戦略（施設長会）
- ・チャイルドファミリーコンサルタント資格取得講座
- ・ベビートイ・インストラクター資格取得講座
- ・ベーシックプロスピーカー資格取得講座
- ・社会人基礎力についての研修
- ・私立幼稚園教育研究大会
- ・夏期指導者研修会

#### (外部講師による特色ある保育)

体育指導（マット・縄跳び・跳び箱・鉄棒・組体操等）とプール指導では色々なことに挑戦し、努力することの大切さ、楽しさが園児の行動から伝わってきます。運動を通して幼児期の心身の健康の発達に役立っています。

又、英会話保育を各クラス月2回、年間にして全体で40回実施しました。

#### (地域との連携・交流事業)

安城七夕祭りへの参加（鼓笛隊）、園での夏まつり開催、交通安全教室（安城自動車学校）への参加等、地域との連携・交流を深めました。一方、系列校との連携では、安城学園高等学校のゼミ実習での生徒受入や、愛知学泉大学家政学部こどもの生活専攻、愛知学泉短期大学幼児教育学科の教育実習での学生受入等を実施しました。

#### (教育活動状況の発信)

愛知学泉短期大学附属幼稚園の教育・保育活動はホームページでも広く発信しています。

愛知学泉短期大学附属幼稚園 URL <http://www.gakusen.ac.jp/tanyo/>

## (6) 愛知学泉大学附属幼稚園

### 【教育理念】

大学幼稚園の教育理念は「豊かな心身の育成と潜在能力の開発」にあります。本学園の建学の精神「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神に基づき、“遊び”を通して、豊かな心と健やかな身体を育むとともに、子ども達の持つ潜在能力が開花出来るように、様々な才能開発の機会や環境（人との触れ合い、自然環境、社会環境）を整えています。

### 【教育方針】

大学附属幼稚園では、子どもたちに色々な経験ができるように様々な機会を設けています。子どもたちが、遊びや集団生活を通して、それぞれの潜在能力（＝無限の可能性）を引き出すよう教職員は自分たちの言葉や行動を通して、「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神を伝えています。

### 【教育事業】

#### （日常保育）

年間の計画に基づき年少児、年中児、年長児の心身の成長・発達の状況を考慮し、5領域（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を踏まえた保育を実践しました。又、様々な保育活動を通じて四季折々の日本の伝統文化を子供達を感じる事が出来るよう配慮しました。そして、毎週水曜日に職員会議を行い、カリキュラム及び活動内容の検討を行い、保育内容の充実改善を図りました。

#### （健やか保育）

温水プールでの保育は毎週水曜日の午前外部専門講師と担任教諭により各学年のカリキュラムにそって実施しました。毎週水曜日の午後及び木曜日の午前は担任教諭によるプールでの保育を実施しました。体操指導にあたっては、木曜日に外部専門講師と担任教諭により各学年のカリキュラムにそって実施しました。

#### （バイリンガル教育）

木曜日に外国人講師と担任教諭による保育を各学年のカリキュラムに沿って実施しました。歌、ゲーム、絵本の読み聞かせなどをすべて英語で行います。年少、年中、そして年長とも年間9回（延べ270分）実施しました。

#### （創作活動）

教諭による創作手作り絵本「壁画ものがたり」を3年に1度制作しています。平成26年度は制作年度ではなく、昨年度制作した版を本年度に配布しました。今後も、この「壁画ものがたり」を通して本学の建学の精神を伝承していきます。

#### （奉仕活動）

年間を通して「一の日運動」を実施。募金収益を安城市の福祉のために寄付を行いました。又、「アフリカに毛布を送る運動」にも協力しました。

#### （表現活動）

絵画などを園外の様々なコンクールにも出展する機会を設け、表現活動に対する子どもの興味や関心が高まりました。

#### （園外保育）

自然の動物や植物に触れたり、交通安全の体験をしたり、星などの観察をして、子どもが自然や社会に対する興味・関心の幅を広げ、自己の感性を育むことを目的に実施しました。

#### （地域との連携）

年間4回の土曜日の園開放を行って沢山の方にご参加いただきました。又、安城七夕祭りでは園児は「ちびっこおみこし」に参加しました。7月の終わりには、幼稚園にて夏祭りを行い地域の方々との交流を深めました。

#### （教育活動状況の発信）

愛知学泉大学附属幼稚園の教育活動はホームページでも広く発信しています。

愛知学泉大学附属幼稚園 URL <http://www.gakusen.ac.jp/daiyo/>



## (7) 愛知学泉大学附属桜井幼稚園

### 【教育理念】

安城学園の附属幼稚園3園に共通する教育理念は、建学の精神「真心・努力・奉仕・感謝」の四大精神です。これは、創立者寺部だい先生の人生を物語るものであり、ひいては私たち教職員一人ひとりの人生の目標でもあります。子どもたち一人ひとりと日々向き合い、子どもたちの幸せを願って保育に励むことが、自ずと建学の精神の実践につながっていくものと考えます。

### 【教育方針】

- ① 自分で“あそび”を見つけ、とことんのめりこんであそべる子に
- ② 豊かな生活体験から、自ら学び、問題を解決していく自主性をもてる子に
- ③ 指示されるのを待つのではなく、自分の頭と心で考え、判断して生活できる子に

### 【教育事業】

桜井幼稚園では、教育方針・教育目標に基づき、幼児期に大切な“人生の根っこ”を育むよう園児たちの指導にあたっています。そして、さらによりよい教育活動を目指し、教員が色々な研修に参加し資質向上を図っています。今年度は教員研修として幼稚園教育課程講座に2名が参加しています。

#### (外部講師による特色ある保育)

桜井幼稚園の保育の特徴のひとつに外部講師によるさまざまな保育があります。

- |               |         |             |      |
|---------------|---------|-------------|------|
| ① わらべうた遊び     | (年間17回) | 10:00～11:30 |      |
| ② げんき道場 (剣道)  | (年間17回) | 10:00～11:30 | 年長のみ |
| ③ お茶会あそび (茶道) | (年間17回) | 10:00～11:30 | 年長のみ |
| ④ 英語あそび       | (年間40回) | 10:00～11:30 |      |
| ⑤ のびのびの～ん体操   | (年間40回) | 10:00～11:30 |      |

#### (子育て支援事業)

未就園児対象の「わくわくランド」を年間を通して実施しました。又、夏まつり(7月)、冬まつり(11月)の開催をはじめ、母親教室・園開放など様々な行事を通じて子育て支援活動を実践しました。

#### (教育活動状況の発信)

愛知学泉大学附属桜井幼稚園の教育活動はホームページでも広く発信しています。是非以下のURLをご覧ください。

愛知学泉大学附属桜井幼稚園 URL <http://sakuraiyouchien.ed.jp/>

## 2 教育研究の概要

### (1) 入学試験の状況

(平成 27 年度)

	入学定員		志願者数		受験者数		合格者数	
愛知学泉大学 (計)	390	(390)	757	(793)	755	(787)	575	(646)
家政学部	190	(190)	593	(618)	591	(613)	422	(480)
現代マネジメント学部	200	(200)	164	(175)	164	(174)	153	(166)
愛知学泉短期大学 (計)	320	(320)	414	(386)	410	(386)	357	(332)
食物栄養学科	40	(40)	67	(66)	66	(66)	58	(51)
幼児教育学科	120	(120)	198	(150)	195	(150)	154	(119)
生活デザイン総合学科	160	(160)	149	(170)	149	(170)	145	(162)
安城学園高等学校	560	(560)	2,577	(2,518)	2,574	(2,510)	2,460	(2,392)
岡崎城西高等学校	540	(540)	2,816	(2,937)	2,807	(2,928)	2,785	(2,478)
合 計	1,810	(1,810)	6,564	(6,634)	6,546	(6,611)	6,177	(5,848)

※ ()は平成 26 年度実績

### (2) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定にあたっての基準に関する情報

愛知学泉大学

(平成 27 年度)

学部・学科等	修業 年限	必要修得 単位数	科目区分ごとの ; 修得単位数		取得可能な学位
家政学部 家政学科 家政学専攻	4 年	124	基礎 34 以上	専門 90 以上	学士 (家政学)
家政学部 家政学科 管理栄養士専攻	4 年	124	基礎 22 以上	専門 94 以上	学士 (家政学)
家政学部 家政学科 こどもの生活専攻	4 年	124	基礎 21 以上	専門 93 以上	学士 (家政学)
経営学部 経営学科	4 年	124	基礎・教養 40 以上	専門 84 以上	学士 (経営学)
現代マネジメント学部 現代マネジメント学科	4 年	124	教養 48 以上	専門 76 以上	学士 (現代マネジメント)

家政学部の成績評価は、秀・K (90 点以上)、優・A (80 点以上)、良・B (70 点以上)、可・C (60 点以上)、及び、不可・F (60 点未満) をもってあらし、秀・K、優・A、良・B 及、可・C を合格としています。

経営学部及び現代マネジメント学部の成績評価は、秀・A (90 点以上)、優・B (80 点以上)、良・C (70 点以上)、可・D (60 点以上)、及び、不可・F (60 点未満) をもってあらし、秀・A、優・B、良・C、及び、可・D を合格としています。

## 愛知学泉短期大学

(平成 27 年度)

学科	修業 年限	必要修得 単位数	科目区分ごとの 修得単位数		取得可能な学位
			基礎	専門	
食物栄養学科	2 年	64	基礎	専門	短期大学士 (食物栄養学)
			12 以上	52 以上	
幼児教育学科	2 年	62	教養	専門	短期大学士 (幼児教育学)
			12 以上	46 以上	
生活デザイン総合学科	2 年	64	ベーシックフィールド	4 エッセ	短期大学士 (地域総合科学)
			12 以上	24 以上	

成績評価は、秀又はK (90 点以上)・優又はA (80 点以上)・良又はB (70 点以上)・可又はC(60 点以上)、及び、付加又はF(60 点未満)をもってあらわし、秀又はK・優又はA・良又はB、及び、可又はCを合格としています。

## (3) 卒業者数と進路状況

## 愛知学泉大学

(平成 27 年度卒業生)

学部・学科・専攻	卒業者数		就職者数		進学者数		就職率(%)	
家政学部 家政学科(計)	166	(184)	156	(167)	2	(2)	93.9	(90.7)
家政学専攻	28	(39)	24	(34)	0	(0)	85.7	(87.1)
管理栄養士専攻	70	(78)	68	(73)	1	(2)	97.1	(93.5)
こどもの生活専攻	68	(67)	64	(60)	1	(0)	94.1	(89.5)
経営学部								
経営学科	0	(7)	0	(5)	0	(0)	-	(71.4)
現代マネジメント学部								
現代マネジメント学科	140	(135)	132	(125)	0	(1)	94.2	(92.5)

※ 就職率＝就職者数÷卒業者数

※ ()は平成 26 年度実績

## 愛知学泉短期大学

(平成 27 年度卒業生)

学部・学科等	卒業者数		就職者数		進学者数		就職率(%)	
食物栄養学科	41	(43)	38	(41)	0	(0)	92.6	(95.3)
幼児教育学科	109	(121)	99	(118)	2	(1)	90.8	(97.5)
生活デザイン総合学科	129	(112)	108	(98)	2	(2)	83.7	(87.5)

※ 就職率＝就職者数÷卒業者数

※ ()は平成 26 年度実績

## (4) 学習環境に関する情報

愛知学泉大学・愛知学泉短期大学

(平成 27 年度)

学 舎	学部・学科等	所在地	主な交通機関
岡崎学舎	大学家政学部 短期大学全学科	〒444-8520 愛知県岡崎市舳越町上川成 28	名鉄東岡崎駅から 名鉄バスで 15 分
<b>【学舎の概要】</b> 大学家政学部と短期大学全学科からなる岡崎学舎は約 1400 名の学生が学んでいます。 施設は 6 棟の校舎と体育館、他には学生寮が同じ敷地内にあります。			
<b>【運動施設の概要等】</b> 体育館、レクリエーション広場、テニスコート、駐車場			
学 舎	学部	所在地	主な交通機関
豊田学舎	経営学部 現代マネジメント学部	〒471-8532 愛知県豊田市 大池町汐取 1	名鉄豊田線三好ヶ丘駅下車スクールバス 7 分、 名鉄豊田線豊田市駅下車スクールバスで 14 分
<b>【学舎の概要】</b> 豊田学舎は約 550 名の学生が学んでいます。 校舎は 5 棟あり、他に学生ホールが 2 棟、体育館、クラブハウス等があります。			
<b>【運動施設の概要等】</b> 野球場、サッカー場、ハンドボールコート、テニスコート、駐車場			

## (5) 国際交流の取り組み

(大学・短期大学)

平成 27 年度現在、次の表のとおり、愛知学泉大学及び愛知学泉短期大学は、4 つの大学と学術交流協定を締結しています。平成 27 年度は大学及び短期大学からは計 7 名の留学生を派遣しました。そして、学術交流協定校から計 5 名の留学生を受け入れました。

国名	学校名	交換留学生数、留学期間	派遣	受入
中国	北京第二外国語学院	1~2 名 (期間: 1 年)	0	3
カナダ	カピラノ大学	3 名 (期間: 4~5 ヶ月)	3	2
韓国	烏山大学	1~2 名 (期間: 1 年)	3	3
台湾	慈濟技術学院	1~2 名 (期間: 1 年)	0	0

このほか、本年度も大学及び短期大学は、学術交流協定校と相互の短期語学研修を実施し、相互交流を深めました。学術交流協定校から計 32 名の短期留学生を受け入れました。本学園からは計 14 名の短期留学生を派遣しました。

(高等学校)

本学園が設置する高等学校では今年度も国際交流を継続して推進しました。

## 【安城学園高等学校】

(留学生派遣)

アメリカ、カナダ、オーストラリアへの長期留学はそれぞれ 1 名を数えました。又、オーストラリア、イギリスへの短期語学研修は本年度の実施を見送りました。

(留学生受入)

タイ、アメリカ合衆国からの長期留学生をそれぞれ 1 名受け入れました。

## 【岡崎城西高等学校】

(留学生派遣)

オーストラリアでの短期語学研修に 20 名が参加しました。

(留学生受入)

本年度の留学生の受け入れはありませんでした。

## (6) 学生納付金に関する情報

愛知学泉大学

(平成 27 年度)

学部等	期	入学金	授業料	教育充実費	実験実習費	合計
家政学部 家政学科 家政学専攻	前期	280,000	355,000	195,000	25,000	855,000
	後期	—	355,000	195,000	—	550,000
	合計	280,000	710,000	390,000	—	1,405,000
家政学部 家政学科 管理栄養士専攻	前期	280,000	355,000	195,000	50,000	880,000
	後期	—	355,000	195,000	—	550,000
	合計	—	710,000	390,000	50,000	1,430,000
学部等	期	入学金	授業料	教育充実費	実習費	合計
家政学部 家政学科 こどもの生活専攻	前期	280,000	355,000	195,000	35,000	865,000
	後期	—	355,000	195,000	—	550,000
	合計	280,000	710,000	390,000	35,000	1,415,000
学部等	期	入学金	授業料	教育充実費	学部教学費	合計
経営学部 経営学科	前期	—	290,000	175,000	29,000	494,000
	後期	—	290,000	175,000	29,000	494,000
	合計	—	580,000	350,000	58,000	988,000
現代マネジメント学部 現代マネジメント学科	前期	280,000	290,000	175,000	29,000	774,000
	後期	—	290,000	175,000	29,000	494,000
	合計	280,000	580,000	350,000	58,000	1,268,000

- ・納入時期：前期納付は入学手続き時(入学生)、又は、5月上旬です。後期納付は10月上旬です。
- ・委託徴収費は次の URL をご参照ください。( <https://www.gakusen.ac.jp/u/exam/tuition.html> )

愛知学泉短期大学

(平成 27 年度)

学科	期	入学金	授業料	教育充実費	実験実習費	合計
食物栄養学科	前期	280,000	350,000	185,000	25,000	840,000
	後期	—	350,000	185,000	—	535,000
	合計	280,000	700,000	370,000	25,000	1,375,000
幼児教育学科	前期	280,000	350,000	185,000	28,000	843,000
	後期	—	350,000	185,000	—	535,000
	合計	280,000	700,000	370,000	28,000	1,378,000
学科	期	入学金	基本授業料	単位授業料	教育充実費	合計
生活デザイン総合学科	前期	280,000	116,000	234,000	185,000	815,000
	後期	—	116,000	234,000	185,000	535,000
	合計	280,000	232,000	468,000	370,000	1,350,000

- ・納入時期：前期納付は入学手続き時(入学生)、又は、5月上旬です。後期納付は10月上旬です。
- ・委託徴収費は次の URL をご参照ください。( <http://www.gakusen.ac.jp/t/jyukensei/gakuhi/> )

高等学校

(平成 27 年度)

学 校	期	入学金	授業料	施設設備維持料	—	合計
安城学園高等学校	1 期	200,000	93,000	9,000	—	302,000
	2 期	—	93,000	9,000	—	102,000
	3 期	—	93,000	9,000	—	102,000
	4 期	—	93,000	9,000	—	102,000
	合計	200,000	372,000	36,000	—	608,000
学 校	期	入学金	授業料	施設設備維持料	進路指導料	合計
岡崎城西高等学校	1 期	200,000	93,000	9,000	1,200	303,200
	2 期	—	93,000	9,000	1,200	103,200
	3 期	—	93,000	9,000	1,200	103,200
	4 期	—	93,000	9,000	1,200	103,200
	合計	200,000	372,000	36,000	4,800	612,800

- ・納入時期：1 期・・・入学手続き時（入学生）、又は、5 月上旬（在学生）  
2 期・・・7 月上旬、3 期・・・10 月上旬、4 期・・・12 月下旬

- ・委託徴収費は次の URL をご参照ください。

安城学園高等学校 (<http://www.angaku.jp/entry.html>)

岡崎城西高等学校 (<http://www.johsei.jp/examination/schoolexpenses.html>)

幼稚園

(平成 27 年度)

学 校		入園料	授業料	教育充実料	冷暖房料	合 計
短期大学附属幼稚園	年額	30,000	204,000	24,000	5,250	263,250
大学附属幼稚園	年額	30,000	204,000	24,000	5,250	263,250
大学附属桜井幼稚園	年額	30,000	204,000	24,000	5,250	263,250

### 3 管理運営の概要

#### (1) ガバナンス

本学園の管理運営にあたり、理事会、評議員会、常任理事会を以下のとおり開催しました。

(理事会)

平成 27 年 5 月 27 日 第 1 回理事会  
平成 27 年 11 月 28 日 第 2 回理事会  
平成 28 年 3 月 26 日 第 3 回理事会

(評議員会)

平成 27 年 5 月 23 日 第 1 回評議員会  
平成 27 年 5 月 28 日 第 2 回評議員会  
平成 27 年 11 月 20 日 第 3 回評議員会  
平成 27 年 11 月 28 日 第 4 回評議員会  
平成 28 年 3 月 18 日 第 5 回評議員会  
平成 28 年 3 月 26 日 第 6 回評議員会

(常任理事会)

本学園の業務に関する重要事項以外の決定であって、あらかじめ理事会において定めたものについては、常任理事会に委任することができます。今年度の常任理事会は定例の開催を月 2 回（中旬と下旬）として計 24 回開催しました。又、臨時の常任理事会を 10 月に 2 回開催しましたので、今年度の常任理事会は合計 26 回の開催となりました。

#### (2) 自己点検・評価

【自己点検・評価（愛知学泉大学）】

平成 22 年度に日本高等教育評価機構による外部評価を受審し、本学は適格の評価を得ました。本年は新しい評価基準に沿った自己点検・評価を実施・公表するための点検作業準備を進めました。

【自己点検ならびに相互評価の実施（愛知学泉短期大学）】

短期大学は平成 25 年度に第二クールの第三者評価を受審しました。結果、本学は建学の精神に基づいた教育と研究活動並びに管理運営において「適格」との評価を得ることとなりました。平成 27 年度はこの第二クールの評価基準に基づき、自己点検・評価を実施し、その成果を平成 26 年度版愛知学泉短期大学自己点検・評価報告書に纏めました。

#### (3) 教職員の資質向上

【学園報告討論会】

平成 27 年 6 月に第 17 回安城学園報告討論会を開催しました。学校法人安城学園の全教職員が本年度の担当校である愛知学泉大学・愛知学泉短期大学 岡崎学舎に一堂に会し、本学園の現状と将来展望についての報告とお互いの教育実践を共有する機会となりました。

討論会は、寺部理事長による基調講演『「これからの社会で必要とされる賢さ」の基盤としての『基礎学力』について』から始まりました。講演ではこれまでの日本の教育を取り巻く現状と課題、そして、学校教育間の縦の接続の現状と課題を総括し、これから学園共通の教育モデル「建学の精神を核にした教育」、「社会人基礎力を核にした教育」、そして、「PISA型学力を核にした教育」と、設置校独自の教育により「教育を再生する」こと、教育を再生するうえで、各学校教育で獲得する基礎学力の重要性を次のように表し講演を締めくくりました。

基礎学力は、「おとな」が「おとな」の役割を果たす上で不可欠なもの

↓

未来の「おとな」である現在の「こども」にとって不可欠なもの

基調講演に続き、神戸国際大学経済学部教授 居神 浩氏によります特別講演「マージナル大学における教学改革の可能性」がありました。講演では、日本の多くの私立大学が抱える現状にどう適応していくか、又、今後の教学改革の可能性について、以下の4つのテーマに沿って解説がありました。

1. だれのための大学改革・教学改革か？
2. いま目の前にいる学生に何を教えるべきか？
3. どのように教学改革を進めるべきか？
4. いま目の前の学生の「やる気」をいかに引き出すか？—実りあるFDのために

2本の講演による全体会が終了ののち10の分科会に分かれて討論が行われました。平成27年度分科会のテーマは次のとおりです。

平成27年度第17回報告討論会分科会テーマ

①	建学の精神実践交流会
②	社会人基礎力実践交流会
③	PISA型学力実践交流会
④	東日本から学ぶ教育実践交流会
⑤	第3の挑戦から学ぶ
⑥	保育者の基本を学ぶ
⑦	教学改革の可能性
⑧	金沢工業大学から学ぶ
⑨	事務の現状と課題からの業務改革への挑戦
⑩	モンテッソーリを学ぶ

#### (4) 情報公開

学校教育法施行規則等に基づく教育情報の公表にあたりまして、愛知学泉大学及び愛知学泉短期大学の教育情報を以下のURLに公表しています。又、平成26年10月から「大学ポートレート」による情報公開を開始しました。これについては新たな情報については随時更新していくこととしています。

愛知学泉大学 URL <http://www.gakusen.ac.jp/u/univ/public.html>

愛知学泉短期大学 URL <http://www.gakusen.ac.jp/t/ippan/info.html>

##### ①教育基本情報

- 1) 教員組織と教員数 2) 教員の学位と業績 3) 入学定員数・在学者数・卒業者数、卒業進路
- 4) 教育課程（授業計画の概要） 5) 取得単位数、評価方法、取得学位
- 6) 学習環境（所在地、交通手段） 7) 学納金 8) 学生支援と奨学金など

##### ②教育力の向上に関する情報

- 1) 学科教育の目的・研究目的 2) 期待される知識・能力 3) 卒業（学位授与）の基準等

##### ③国際的な観点で発信すべき大学情報

- 1) 学生に関する内容 2) 教育課程に関する情報 3) 外国人教員数
- 4) 国際連携の状況 5) 留学生への対応 6) 外部資金の獲得状況
- 7) 外部レビューの実施状況など

##### ④財務情報

- 1) 事業報告書 2) 貸借対照表 3) 資金収支計算書 4) 事業活動収支計算書 5) 財産目録
- 6) 監査報告書



### III 財務の概要

#### 【学園の持続可能性のための条件について】

- ① 学生・生徒・園児のいない学校は学校として機能しません。同じく、教職員のいない学校も学校として機能しません。つまり、学校が学校として成り立つためには一定数の学生・生徒・園児と一定数の教職員が継続的に存在することが基本となります。本学園では、学校が学校として成り立つための、言い換えると、学校の持続可能性を担保する主たるコントロール変数として、専任教職員数一人当たりの学生・生徒・園児数を採用しています。具体的には、この主たるコントロール変数を 20 名に近づけることによって、学園の持続可能性を担保しようと考えています。
- ② 学校が学校として成り立つためには教職員数一人当たりの人件費、特に専任教職員一人当たりの人件費が社会的に適切な水準にあることが必要と考えています。財政が良いからといって社会的な水準を無視した高水準の人件費、又、財政が悪いからといって社会的な水準を無視した低水準の人件費で対応するわけにはいかないと考えています。本学園では公務員の人件費の水準を標準にすべきであると考えています。
- ③ 学校が学校として成り立つには受益者負担の原則に基づいて学校運営する必要があると考えています。従って、学納金の水準及びサービスの水準については保護者が負担可能な範囲に設計することが必要です。この観点からも専任教職員数一人当たりの人件費を社会的に妥当な水準にしていける必要があると考えています。
- ④ 学校が学校として成り立つとともに学校の成長・発展のためには投資が必要であると考えています。そのためには、事業活動収入に占める事業活動支出の比率が重要となります。

#### 【学校法人会計基準の概略】

平成 25 年 4 月に学校法人会計基準の一部を改正する省令が公布されました。これにより平成 27 年度以降の会計年度に係る会計処理及び計算書類に適用されることとなります。平成 27 年度決算では、改正後の基準を適用した計算書類を初めて作成しています。「学校法人会計基準」に定められている計算書類は、資金収支計算書、事業活動支計算書、貸借対照表です。又、私立学校法によりこれらの他に財産目録、事業報告書を作成することになっています。国又は地方公共団体から経常費補助金の交付を受ける学校法人は、私立学校振興助成法の定めにより「学校法人会計基準」に基づいて会計処理を行い、計算書類を作成し、公認会計士又は監査法人による監査を受けて所轄庁に届け出ることが義務づけられています。

#### 【学校会計の用語解説】

(事業活動収入 (帰属収入))

学生生徒等納付金、補助金等の当該年度の収入のうち、学校法人の負債とならない収入のことです。

(事業活動支出 (消費支出))

人件費、消耗品費、光熱水費、減価償却額等当該年度に消費する支出です。

(繰越収支差額 (消費収支差額))

事業活動の収支から基本金組入額を差し引いたものです。財政の均衡状態をあらわします。これがマイナスの場合、支出超過となり収支が均衡せず資金不足となっていることを示します。

(基本金)

基本金とは、学校法人がその諸活動の計画に基づいて継続的に維持すべき資産で、第 1 号から第 4 号に該当するものです。これは帰属収入の中から充当します。これを基本金の組入といいます。

第 1 号基本金…自己資金による土地、建物、設備などの固定資産の取得額

第 2 号基本金…将来の固定資産取得に備えた資金の先行組入額

第 3 号基本金…基金の積立額

第 4 号基本金…恒常的に保持すべきものとされる 1 ヶ月分の運転資金相当額

【財政健全化スキームについて】

本学園では、事業活動収支比率(=事業活動収入に占める事業活動支出の比率)について80%~90%を目標としています。当面の課題はこの事業活動収支比率を90%以下にすることです。このための具体的な数値目標は、事業活動収入の下限目標金額を60億円以上、事業活動支出の上限目標金額を54億円以下としています。

(1) 事業活動収入の目標金額について

事業活動収入目標は60億円以上としています。ただし、この60億円の中には雑収入(退職金財団交付金と退職給与引当金戻入額)は含まれません。目標金額60億円の部門別目標金額は以下のとおりです。

事業活動収入の目標金額	6,000,000,000円
愛知学泉大学岡崎学舎	1,050,000,000円
愛知学泉大学豊田学舎	1,000,000,000円
愛知学泉短期大学	950,000,000円
安城学園高等学校	1,300,000,000円
岡崎城西高等学校	1,300,000,000円
幼稚園(3園)	300,000,000円
法人部門	100,000,000円

(2) 事業活動支出の目標について

事業活動支出の目標金額は54億円を上限とします。ただし、事業活動支出の合計額から雑収入(退職金財団交付金と退職給与引当金戻入額)の合計額を控除した額を事業活動支出の目標金額としています。目標金額54億円の費目別内訳は以下のとおりです。

事業活動支出の目標金額(上限)	5,400,000,000円
人件費	3,600,000,000円
(本務教職員)	(3,200,000,000円)
(兼務教職員)	(300,000,000円)
(退職金関係)	(100,000,000円)
その他の消費支出	1,800,000,000円

※ 本務教職員人件費の32億円の内訳は、本務教員人件費の26億円、本務職員人件費の6億円となります。

※ 本務教職員数については、340名を上限とします。

このとき本務教員数の上限は270名、本務職員数の上限は70名となります。

【財政健全化スキームの達成度について】

(事業活動収入)

目標の6,000,000千円(但し、退職金に係る収入を除く)に対する平成27年度実績は5,651,595千円となり、目標に対して348,404千円の不足となりました。なお、事業活動収入を学生・生徒・園児数に換算した場合の目標6200名に対する平成27年度実績は5567名となり633名の不足となりました。

(人件費)

上限目標の3,600,000千円に対して実績は3,927,861千円となり、上限目標に対して327,861千円の支出超過となりました。

(経常的経費(事業活動支出から人件費を除いた額))

上限目標1,800,000千円に対して実績は1,850,899千円となり、上限目標金額に対して50,899千円の支出超過となりました。

(基本金組入前収支差額比率)

財政健全化スキームにおける事業活動収入、事業活動支出はそれぞれ5,651,595千円、5,791,064千円となりました。この収支比率は102%となり目標の90%に対して12%支出超過の結果となりました。

## 1 決算の概要

### (1) 貸借対照表の状況

貸借対照表は、一定時点（決算日）における資産、負債、及び純資産の内容と残高を明示し、学校法人の財政状況を明らかにするものです。ここでは本年度決算と前年度決算、それと本年度の前年度に対する増減を表に示しています。

(単位：円)

資産の部			
科 目	本年度末(A)	前年度末(B)	増減(A-B)
固定資産	21,653,074,930	21,903,928,267	△250,853,337
有形固定資産	18,287,893,575	18,449,887,073	△161,993,498
特定資産	3,302,429,604	3,382,563,009	△80,133,405
その他の固定資産	62,751,751	71,478,185	△8,726,434
流動資産	4,229,703,865	4,240,263,361	△10,559,496
資産の部合計	25,882,778,795	26,144,191,628	△261,412,833
負債の部			
科 目	本年度末(A)	前年度末(B)	増減(A-B)
固定負債	1,886,486,332	2,108,996,326	△222,509,994
うち長期借入金	457,317,387	662,804,316	△205,486,929
流動負債	1,540,132,144	1,494,077,451	△46,054,693
うち短期借入金	205,486,929	256,788,543	△51,301,614
負債の部合計	3,426,618,476	3,603,073,777	△176,455,301
純資産の部			
科 目	本年度末(A)	前年度末(B)	増減(A-B)
基本金	27,857,580,497	27,725,604,652	131,975,845
繰越収支差額	△5,401,420,178	△5,184,486,801	△216,933,377
純資産の部合計	22,456,160,319	22,541,117,851	△84,957,532
負債及び純資産の部合計	25,882,778,795	26,144,191,628	△261,412,833

(解説)

**【資産の部】**

資産総額は、25,882,778千円となり前年度に比べて261,412千円減少しました。固定資産及び流動資産の増減の主な要因は以下のとおりです。

(固定資産)

有形固定資産

全体で18,287,893千円となり、前年度に比べて161,993千円減少しました。この要因は当期取得した資産の増加分150,681千円、減価償却による既存資産の減少分382,683千円、当期除却した資産の減少分136,623千円を相殺した結果によるものです。

特定資産

全体で3,302,429千円となり前年度に比べて80,133千円減少しました。主たる減少要因は借入金等返済引当特定資産が90,133千円減少したことによります。

その他の固定資産

全体で435,311千円となり前年度に比べて8,726千円減少しました。これは長期貸付金が1,763千円、長期前払金が7,001千円減少したことによります。

(流動資産)

流動資産は全体で4,229,703千円となり前年度に比べて10,559千円減少しました。主たる減少要因は、現金預金が前年度に比べて11,120千円増加したこと、未収入金が前年度に比べて82,328千円減少したこと、そして、仮払金が前年度に比べて64,766千円増加したことによります。

**【負債の部】**

負債総額は3,426,618千円となり前年度に比べて176,455千円減少しました。固定負債、流動負債の主な変動要因は以下のとおりです。

(固定負債)

固定負債は全体で1,886,486千円となり、前年度に比べて222,509千円減少しました。固定負債のうち長期借入金が前年度に比べて205,486千円減少しています。これは、大学及び高等学校の校舎増築、改修にかかる借入金のうち平成28年度に返済予定の81,640千円と高等学校授業料軽減事業等にかかる借入金のうち平成28年度に返済予定の123,846千円を短期借入金として流動負債に振り替えたことによるものです。

(流動負債)

流動負債は全体で1,540,132千円となり前年度に比べて46,054千円減少しました。流動負債のうち短期借入金が51,301千円減少したこと、又、前受金が前年度に比べて24,164千円減少したことのほか、未払金は年度末退職者の増加に伴い退職金が前年度に比べて12,184千円増加したことにより前年度に比べて97,341千円の増額となりました。

**【基本金の部】**

基本金の合計は27,857,580千円となり、前年度に比べて131,975千円増加しました。これは、第1号基本金が131,975千円増加したことによるものです。第2号基本金・第3号基本金・第4号基本金に増減はありませんでした。

**【繰越収支差額の部】**

翌年度繰越収支差額は△5,401,420千円となり、前年度に比べて216,933千円減少しました。

## (2) 事業活動収支計算書の状況

(単位：円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科 目	本年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A-B)
		学生生徒等納付金	3,630,496,500	3,730,126,550	△99,630,050
		手数料	121,376,230	127,594,076	△6,217,846
		寄付金	188,342,666	177,287,947	11,054,719
		経常費等補助金	1,662,008,174	1,614,825,812	47,182,362
		付随事業収入	22,409,139	28,213,699	△5,804,560
		雑収入	256,088,504	205,664,214	50,424,290
		教育活動収入計	5,880,721,213	5,883,712,298	△2,991,085
	事業活動支出の部	科 目	本年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A-B)
		人件費	4,169,259,091	4,132,945,769	36,313,322
		教育研究経費	1,328,326,011	1,370,253,310	△41,927,299
		管理経費	466,698,368	557,487,245	△90,788,877
		徴収不能額等	0	4,889,660	△4,889,660
		教育活動支出計	5,964,283,470	6,065,575,984	△101,292,514
教育活動収支差額	△83,562,257	△181,863,686	98,301,429		
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	本年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A-B)
		受取利息・配当金	374,725	488,309	△113,584
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	374,725	488,309	△113,584
	事業活動支出の部	科 目	本年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A-B)
		借入金等利息	8,493,405	10,045,135	△1,551,730
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	8,493,405	10,045,135	△1,551,730
	教育活動外収支差額	△8,118,680	△9,556,826	1,438,146	
	経常収支差額	△91,680,937	△191,420,512	99,739,575	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	本年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A-B)
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	54,106,242	7,165,852	46,940,390
		特別収入計	54,106,242	7,165,852	46,940,390
	事業活動支出の部	科 目	本年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A-B)
		資産処分差額	7,760,486	16,657,667	△8,897,181
		その他の特別支出	39,622,351	0	39,622,351
		特別支出計	47,382,837	16,657,667	30,725,170
特別収支差額	6,723,405	△9,491,815	16,215,220		
[予備費]			0		
基本金組入前当年度収支差額	△84,957,532	△200,912,327	115,954,795		
基本金組入額合計	△131,975,845	△47,815,597	△84,160,248		
当年度収支差額	△216,933,377	△248,727,924	31,794,547		
前年度繰越収支差額	△5,184,486,801	△4,935,758,877	△248,727,924		
基本金取崩額	0	0	0		
翌年度繰越収支差額	△5,401,420,178	△5,184,486,801	△216,933,377		
(参考)					
事業活動収入計	5,935,202,180	5,891,366,459	43,835,721		
事業活動支出計	6,020,159,712	6,092,278,786	△72,119,074		

(解説)

事業活動収入は5,935,202千円となり、前年度に比べて43,835千円減少しました。次に、基本金組入額は131,975千円となり、前年度に比べて84,160千円増加しました。この結果、収入は5,843,550千円となり、前年度に比べて33,688千円の減少となりました。一方、事業活動支出は6,020,159千円となり、前年度に比べて72,119千円の減少となりました。この結果、当年度収支差額は△216,933千円となり、前年度に比べて31,794千円増加しました。

【教育活動収支】

教育活動収入計は5,880,721千円となり、前年度に比べて2,991千円の減少となりました。

教育活動支出計は5,964,283千円となり前年度に比べて101,292千円の減少となりました。

(学生生徒等納付金)

全体で3,630,496千円となり、前年度に比べて99,6300千円の減少となりました。これは、主に入学者の減少、在学生の退学・除籍の増加によるものです。

(経常費等補助金)

全体で1,662,008千円となり、前年度に比べて47,182千円の減少となりました。このうち、大学・短期大学の経常費補助金は全体で298,028千円となり、前年度に比べて16,229千円の減少となりました。これは、学生数の減少、圧縮率の引下げ等により補助金算定に係る調整係数が低下したことによります。一方、地方公共団体補助金は学生単価の引き上げ等により全体で1,363,980千円となり前年度に比べて63,411千円の増加となりました。

(雑収入)

全体で256,088円となり、前年度に比べて50,424千円の増加となりました。このうち、退職者数の増加により退職金財団交付金が68,937円の増額になっています。

(人件費)

人件費は4,169,259千円となり、前年度に比べて36,313千円の増加となりました。この主な要因は退職者数の増加により退職金が148,930千円となり前年度に比べて96,266千円増加したことによります。

(教育研究経費)

教育研究経費は1,328,326千円となり、前年度に比べて41,927千円の減少となりました。この主な要因は光熱水費が前年度に比べて21,420千円減少したこと、奨学金が前年度に比べて4,563千円減少したこと、また、減価償却額が前年度に比べて7,384千円減少したことによります。

(管理経費)

管理経費は466,698千円となり、前年度に比べて90,788千円の減少となりました。これは前年度に計上した臨時的支出100,663千円が当年度は発生しなかったことによります。

(徴収不能額等)

徴収不能額等は0円で、前年度に比べて4,889千円の減少となりました。これは前年度に計上した徴収不能引当金を戻入したことによります。

【特別収支】

特別収入は54,106千円となり前年度に比べて46,940千円の増加となりました。主な要因は本年度に施設設備補助金44,313千円を計上していることによります。

特別支出は47,382千円となり前年度に比べて46,940千円の増加となりました。主な要因は本年度に過年度修正額39,622千円を計上していることによります。

【基本金組入額】

全体で131,975千円となり前年度に比べて84,160千円の増加となりました。当期組入額は、当期取得分258,212千円、当期除却分△51,107千円、過年度修正分△166,249千円、そして、校舎建設に伴う借入金の当期返済分81,640千円とリース取引未払金の当期支払分9,450千円を相殺した結果によるものです。

## (3) 資金収支計算書の状況

資金収支計算書は、学校法人の当該年度の教育研究活動やこれに付随する活動に対応する、すべての収入と支出の内容を明らかにし、又現金預金の1年間（4月1日～3月31日）の動きを表すものです。ここでは本年度決算と前年度決算、それと本年度の前年度に対する増減を表に示しています。

(単位：円)

収入の部			
科 目	本年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A-B)
学生生徒等納付金収入	3,630,496,500	3,730,126,550	△99,630,050
手数料収入	121,376,230	127,594,076	△6,217,846
寄付金収入	188,266,021	176,933,890	11,332,131
補助金収入	1,706,321,174	1,614,825,812	91,495,362
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	22,409,139	28,213,699	△5,804,560
受取利息・配当金収入	374,725	488,309	△113,584
雑収入	251,859,248	179,130,155	72,729,093
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	777,266,000	801,430,500	△24,164,500
その他の収入	712,173,174	969,530,476	△257,357,302
資金収入調整勘定	△1,308,805,889	△1,432,717,313	123,911,424
前年度繰越支払資金	3,596,820,727	3,287,424,523	309,396,204
収入の部合計	9,698,557,049	9,482,980,677	215,576,372
支出の部			
科 目	本年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A-B)
人件費支出	4,182,152,162	4,109,777,119	72,375,043
教育研究経費支出	963,359,575	995,982,263	△32,622,688
管理経費支出	458,716,327	436,236,480	22,479,847
借入金等利息支出	8,493,405	10,045,135	△1,551,730
借入金等返済支出	256,788,543	310,358,145	△53,569,602
施設関係支出	176,744,660	56,402,828	120,341,832
設備関係支出	73,318,582	51,439,193	21,879,389
資産運用支出	10,016,556	10,119,103	△102,547
その他の支出	392,116,139	242,107,042	150,009,097
〔予備費〕			
資金支出調整勘定	△431,090,069	△336,307,358	△94,782,711
翌年度繰越支払資金	3,607,941,169	3,596,820,727	11,120,442
支出の部合計	9,698,557,049	9,482,980,677	215,576,372

## (解説)

本年度の翌年度繰越支払資金は3,607,941千円となり、前年度に比べて11,120千円の増加となりました。これは期中の資金収支が11,120千円の収入超過であったことを示しています。これは収入の部合計から前年度繰越支払資金を除いた額6,101,736千円と支出の部合計から次年度繰越支払資金を除いた額6,090,615千円の差し引きで求まります。

2 経年比較  
 (1) 貸借対照表

(単位：千円)

科目	年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
固定資産		23,088,793	22,634,349	22,363,504	21,903,928	21,653,074
有形固定資産		19,343,514	19,024,868	18,818,512	18,449,887	18,287,893
特定資産		3,632,273	3,547,484	3,464,248	3,382,562	3,302,429
その他の固定資産		113,004	61,994	80,742	71,476	62,751
流動資産		4,164,245	4,185,143	4,146,645	4,240,263	4,229,703
<b>資産の部合計</b>		<b>27,253,038</b>	<b>26,819,492</b>	<b>26,510,150</b>	<b>26,144,191</b>	<b>25,882,778</b>
固定負債		3,010,417	2,640,011	2,336,992	2,108,996	1,886,486
うち長期借入金		660,340	578,700	497,060	415,420	333,780
流動負債		1,575,247	1,518,336	1,431,127	1,494,077	1,540,132
うち短期借入金		81,640	81,640	81,640	81,640	81,640
負債の部合計		4,585,665	4,158,348	3,768,120	3,603,073	3,426,618
基本金		27,632,708	27,647,160	27,677,789	27,725,604	27,857,580
繰越収支差額		△ 4,965,335	△4,986,015	△4,935,758	△5,184,486	△5,401,420
純資産の部合計		22,667,373	22,661,145	22,742,031	22,541,118	22,456,160
<b>負債及び純資産の部合計</b>		<b>27,253,038</b>	<b>26,819,492</b>	<b>26,510,150</b>	<b>26,144,191</b>	<b>25,882,778</b>
<b>減価償却累計額</b>		<b>8,716,519</b>	<b>8,953,725</b>	<b>8,942,267</b>	<b>9,283,171</b>	<b>9,486,050</b>
<b>基本金要組入高</b>		<b>28,413,116</b>	<b>28,333,859</b>	<b>28,270,779</b>	<b>28,243,057</b>	<b>28,283,912</b>

※ 本表は千円未満を切捨しているため数値合計は必ず一致するわけではありません。

※ 長期借入金と短期借入金は債務負担行為のない借入金を除いた額を表示しています。



## (2) 事業活動収支計算書

(単位：千円)

教育活動収支	事業活動収入の部	科目	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	
		学生生徒等納付金	3,815,760	3,839,279	3,779,797	3,730,126	3,630,496	
		手数料	131,710	127,515	130,375	127,594	121,376	
		寄付金	189,142	189,722	182,967	177,287	188,341	
		経常費等補助金	1,633,559	1,622,912	1,609,248	1,614,825	1,662,008	
		付随事業収入	22,051	23,685	18,860	28,213	22,409	
		雑収入	155,856	166,968	127,472	205,663	256,086	
	教育活動収入計	5,948,078	5,970,081	5,848,719	5,883,708	5,880,716		
	事業活動支出の部	人件費	4,079,835	4,085,109	3,986,779	4,132,945	4,169,259	
		教育研究経費	1,259,870	1,331,199	1,345,104	1,370,253	1,328,326	
		うち減価償却額	360,027	359,439	358,892	372,257	364,872	
		管理経費	403,710	541,588	437,526	557,487	466,698	
		うち減価償却額	1,114	1,959	6,181	10,425	10,796	
		徴収不能額等	4,599	5,155	18,567	4,889	0	
教育活動支出計		5,748,014	5,963,051	5,787,976	6,065,574	5,964,283		
教育活動収支差額	200,064	7,030	60,743	△181,866	△83,567			
教育活動外収支	収入の部	事業活動	受取利息・配当金	3,349	851	579	488	374
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0	
		教育活動外収入計	3,349	851	579	488	374	
	支出の部	事業活動	借入金等利息	14,700	13,148	11,596	10,045	8,493
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0	
		教育活動外支出計	14,700	13,148	11,596	10,045	8,493	
教育活動外収支差額	△11,351	△12,297	△11,017	△9,557	△8,119			
経常収支差額	188,713	△5,267	49,726	△191,423	△91,686			
特別収支	収入の部	事業活動	資産売却差額	0	1,440	0	0	0
		その他の特別収入	26,868	40,965	58,563	7,165	54,105	
		特別収入計	26,868	42,405	58,563	7,165	54,105	
	支出の部	事業活動	資産処分差額	10,038	43,371	27,407	16,657	7,760
		その他の特別支出	0	0	0	0	39,622	
		特別支出計	10,038	43,371	27,407	16,657	47,382	
特別収支差額	16,830	△966	31,156	△9,492	6,723			
基本金組入前当年度収支差額	205,543	△6,233	80,882	△200,915	△84,963			
基本金組入額	△173,529	△14,451	△30,628	△47,815	△131,975			
当年度収支差額	32,014	△20,684	50,254	△248,730	△216,938			
前年度繰越収支差額	△4,997,350	△4,965,335	△5,000,261	△4,957,238	△5,213,621			
基本金取崩額	0	0	0	0	0			
翌年度繰越収支差額	△4,975,751	△5,000,261	△4,957,238	△5,213,621	△5,430,559			
(参考)								
事業活動収入計	5,978,295	6,013,337	5,907,861	5,891,361	5,935,195			
事業活動支出計	5,772,752	6,019,570	5,826,979	6,092,276	6,020,158			

※ 本表は千円未満を切捨しているため数値合計は必ず一致するわけではありません。

## (3) 資金収支計算書

(単位：千円)

収入の部	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
学生生徒等納付金収入	3,815,760	3,839,279	3,779,797	3,730,126	3,630,496
手数料収入	131,710	127,515	130,375	127,594	121,376
寄付金収入	188,818	188,951	182,844	176,933	188,266
補助金収入	1,653,361	1,650,486	1,661,159	1,614,825	1,706,321
資産売却収入	0	44,087	0	0	0
付随事業・収益事業収入	22,051	23,685	18,860	28,213	22,409
受取利息・配当金収入	3,349	851	579	488	374
雑収入	155,856	166,968	127,472	179,129	251,856
借入金等収入	2,205	0	0	0	0
前受金収入	847,570	797,347	832,254	801,430	777,266
その他の収入	1,980,354	1,468,438	1,191,339	969,530	712,173
資金収入調整勘定	△ 2,224,004	△1,950,076	△1,623,932	△1,432,717	△1,308,805
前年度繰越支払資金	2,315,021	2,738,188	3,047,144	3,287,424	3,596,820
収入の部合計	8,892,055	9,095,725	9,347,898	9,482,980	9,698,552

(単位：千円)

支出の部	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
人件費支出	4,084,117	4,088,665	3,970,470	4,109,777	4,182,152
教育研究経費支出	899,518	971,062	987,852	995,982	963,359
管理経費支出	402,595	436,474	399,135	436,236	458,716
借入金等利息支出	14,700	13,148	11,596	10,045	8,493
借入金等返済支出	412,726	389,725	354,780	310,358	256,788
施設関係支出	61,538	119,859	168,533	56,402	176,744
設備関係支出	55,073	49,898	43,140	51,439	73,318
資産運用支出	10,028	10,024	10,021	10,119	10,016
その他の支出	481,306	280,667	341,290	242,107	392,116
資金支出調整勘定	△ 267,738	△310,945	△226,347	△336,307	△431,090
翌年度繰越支払資金	2,738,188	3,047,144	3,287,424	3,596,820	3,607,941
支出の部合計	8,892,055	9,095,725	9,347,898	9,482,980	9,698,552

※ 本表は千円未満を切捨しているため数値合計は必ず一致するわけではありません。

### 3 財務比率

#### (1) 貸借対照表関係比率

(単位：%)

比率名称	評価	算式 (×100)	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
純資産構成比率	↑	$\frac{\text{純資産}}{\text{総負債+純資産}}$	83.2 (86.9)	84.5 (87.2)	85.8 (87.4)	86.2 (87.5)	86.8
基本金比率	↑	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	97.3 (97.1)	97.6 (97.1)	97.9 (97.1)	98.2 (97.1)	98.5
固定資産構成比率	↓	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	84.7 (87.0)	84.4 (86.7)	84.4 (86.7)	83.8 (86.4)	83.7
流動資産構成比率	↑	$\frac{\text{流動資産}}{\text{総資産}}$	15.3 (13.0)	15.6 (13.3)	15.6 (13.3)	16.2 (13.6)	16.3
内部留保資産比率	↑	$\frac{\text{運用資産-総負債}}{\text{総資産}}$	12.2 (25.7)	13.6 (26.2)	14.8 (26.2)	15.6 (26.2)	16.1
流動比率	↑	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	264.4 (230.3)	275.6 (237.1)	289.7 (245.9)	283.8 (253.2)	274.6
前受金保有率	↑	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	323.1 (311.7)	382.2 (324.0)	395.0 (327.9)	448.8 (344.6)	464.2
固定負債構成比率	↓	$\frac{\text{固定負債}}{\text{総負債+純資産}}$	11.0 (7.5)	9.8 (7.2)	8.8 (7.2)	8.1 (7.2)	7.3
流動負債構成比率	↓	$\frac{\text{流動負債}}{\text{総負債+純資産}}$	5.8 (5.6)	5.7 (5.6)	5.4 (5.4)	5.7 (5.4)	6.0
総負債比率	↓	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	16.8 (13.1)	15.5 (12.8)	14.2 (12.6)	13.8 (12.5)	13.2
負債比率	↓	$\frac{\text{総負債}}{\text{純資産}}$	20.2 (15.1)	18.4 (14.7)	16.6 (14.4)	16.0 (14.3)	15.3

※ 下段( )内の数値は、全国の医歯系法人を除く大学法人の平均値

※「評価」の見方：「↑」高い値が良い、「↓」低い値が良い、「～」どちらともいえない

(日本私立学校振興・共済事業団「平成27年度版今日の私学財政—大学・短期大学編」より)

## (2) 事業活動収支関係比率

(単位：%)

比率名	評価	算式 (×100)	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
人件費比率	↓	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	68.2 (54.0)	67.9 (52.8)	67.5 (52.4)	70.2 (50.9)	70.2
教育研究経費比率	↑	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	21.1 (30.9)	22.1 (31.2)	22.8 (31.5)	23.3 (31.2)	22.4
管理経費比率	↓	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	6.8 (8.7)	9.0 (9.2)	7.4 (8.8)	9.5 (9.0)	7.9
借入金等利息比率	↓	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.2 (0.4)	0.2 (0.3)	0.2 (0.3)	0.2 (0.3)	0.1
事業活動収支差額比率	↑	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	3.4 (3.4)	-0.1 (4.8)	1.4 (5.2)	-3.4 (7.2)	-1.4
基本金組入後収支比率	↓	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	99.4 (109.2)	100.3 (107.9)	99.1 (107.8)	104.3 (107.5)	101.4
学生生徒等納付金比率	～	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	63.8 (72.7)	63.8 (73.4)	64.0 (72.4)	63.3 (69.5)	61.2
寄付金比率	↑	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	3.3 (2.3)	3.4 (2.0)	3.2 (2.2)	3.1 (3.9)	3.3
補助金比率	↑	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	27.7 (12.4)	27.4 (12.6)	28.1 (12.8)	27.4 (12.2)	28.7
基本金組入比率	↑	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	2.9 (11.6)	0.2 (11.7)	0.5 (12.1)	0.8 (13.6)	2.2

※ 下段( )内の数値は、全国の医歯系法人を除く大学法人の平均値

※ 「評価」の見方：「↑」高い値が良い、「↓」低い値が良い、「～」どちらともいえない

(日本私立学校振興・共済事業団「平成27年度版今日の私学財政—大学・短期大学編」より)